



松原市立中央小学校

インターナショナルセーフスクール

認証申請書



第1章 中央小学校の概要



1. 校名、校章、教育目標

中央小学校は、1973年に創立され、本年度創立44年目を迎えます。

【校章】



教育目標 豊かな人権感覚を持ち、地域に根ざし、
人権尊重の社会づくりのために主体的に行動する子ども

2. 児童数

全校児童数は2013年度より、毎年減り続けています。それでも、松原市の15小学校の内、4番目に多い児童数です。また、教職員数は30名で、その内20歳台が9名と教職員数の30%を占め、若い教職員が多いことが特徴です。

【表1-1】

年度	児童数
2013年度	549人
2014年度	505人
2015年度	484人
2016年度	467人
2017年度	434人

【表1-2】 2017年度児童数

学年	人数	クラス数
1年生	65人	2クラス
2年生	73人	2クラス
3年生	69人	2クラス
4年生	69人	2クラス
5年生	83人	3クラス
6年生	75人	2クラス
支援学級	(24人)	5クラス
合計	434人	18クラス

※日本では新年度が4月から始まります。

全校児童数 434名 (2017年度4月10日現在)
職員数 30名

3.日課表

【表2】

	時 程
朝会	8時30分～ 8時45分
1時間目	8時45分～ 9時30分
2時間目	9時40分～10時25分
3時間目	10時45分～11時30分
4時間目	11時35分～12時20分
給食	12時20分～13時05分
清掃	13時05分～13時25分
昼休み	13時25分～13時50分
5時間目	13時50分～14時35分
6時間目	14時40分～15時25分
終学活	15時25分～15時40分



4.学校を取り巻く環境

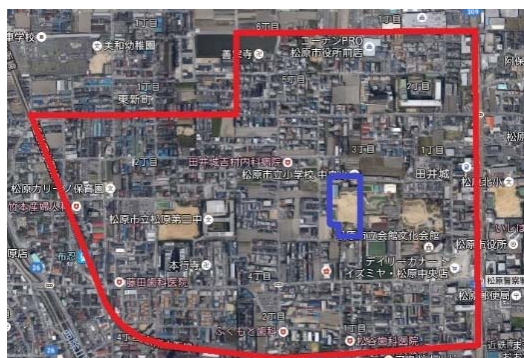
(1) 校区の様子

校区の東は交通量の多い2車線の国道、南から西は近鉄南大阪線という私鉄に囲まれています。松原市の中では、ほぼ中央に位置し、学校の周辺には多くの公共施設や大型スーパーがあります。

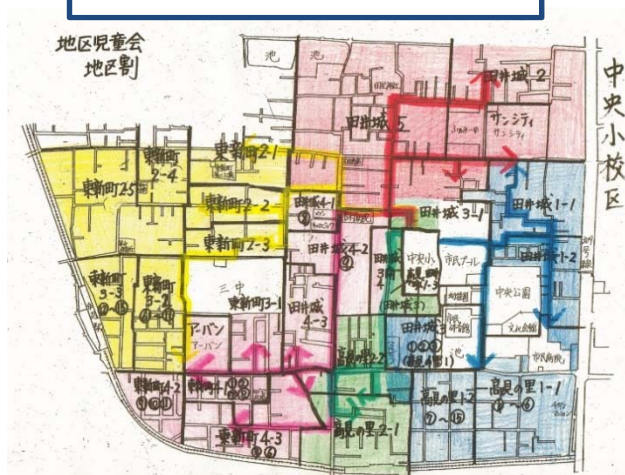
校区や通学路は、5つの区分に色分けされています。急な災害などの時、集団下校がスムーズに行えるようにするためです。また、家の近くの児童が顔見知りになることにより、複数で登下校し、危険な目に合うリスクを減らすことができます。

地域の防犯、防災意識は高く、毎年学校で行われる地域と合同の防災訓練には、たくさんの方が参加されます。大阪では近年中に大きな地震が起こる可能性が高いと言われています。その時に、子どもたちが自分で判断して行動できるようになっていくことが必要です。

松原市の航空地図



中央小学校の校区及び通学路



第2章 インターナショナルセーフスクールに関する取り組みの経緯

1. 取り組みの背景

松原市では、2013年11月16日に大阪初のセーフコミュニティ国際認証を取得しました。日本国内では8番目、世界では、323番目の取得となります。

セーフコミュニティは「世界保健機関（WHO）地域の向上のための協働センター」が世代や障がいの有無にかかわらず、安心・安全に暮らせるまちづくりに継続的に取り組む「まち」に認証する制度です。「けがやそれを引き起こす事故などは偶然に起こるものではなく、予防できる」という理念のもと、科学的なデータに基づく「プログラム」と、地域・行政・警察・家庭・学校などの「横断的な連携」を組み合わせ、事故、犯罪、災害、自殺などの予防に継続的に取り組むものです。

松原市セーフコミュニティ推進協議会では、6つの重点課題を設け、対策委員会の一つとして「子どもの安全」対策委員会が活動を行ってきました。「子どもの安全」対策委員会では、就学前児童のけが・児童虐待・小学校におけるけがの防止に取り組んでいます。

この松原市の国際認証を受け、松原市立松原第三中学校区の3校（松原第三中学校・布忍小学校、中央小学校）が連携し、2015年5月21日、セーフコミュニティの学校版である「インターナショナルセーフスクール（ISS）」の2017年11月の国際認証の取得に向けた取り組みの開始を宣言しました。

松原市立松原第三中学校区
〈ISS 取り組み着手の宣言式〉
2015年5月21日



〈セーフコミュニティ活動報告会〉



2. これまでの取り組み

【表3】

	合 同		中 央 小	
2 0 1 5 年 度	5月21日	ISS 着手表明		
	6月11日	ISS 事前審査視察（豊島区）	6月12日	不審者対応避難訓練
	7月 1日	ISS 現地審査視察（亀岡市）	6月12日	救命講習
	9月 1日	インターナショナルセーフ スクール合同研修		
	9月 5日	ISS 決意表明（松原市立文化会館）		
	10月6・7日	ISS 現地審査視察（厚木市） 学校視察（豊島区）	10月 7日	火災避難訓練
	11月16・17日	ISS 現地審査視察（秩父市）	1月23日	土曜防災訓練
	2月 2日 3月13日	ISS サミット in 豊島に参加 松原市総合防災訓練	1月18日	地域避難訓練
2 0 1 6 年 度	6月10日	ISS 事前審査視察（豊島区）	5月19日	5年生防犯教室
	7月 1日	第1回 ISS 校区子ども会議	5月31日	地区別集会・集団下校
	7月18日	松原市子ども議会	6月 1日	不審者対応避難訓練
	8月26日	松原市生徒会児童会交流会	6月 2日	救命講習
	10月 7日	第2回 ISS 校区子ども会議	6月18日	ISS ワークショップ （校内危険箇所探し）
	11月 4日	第3回 ISS 校区子ども会議 （出前）	7月 4日	6年生防犯教室
	11月11日	第4回 ISS 校区子ども会議 （松原第三中学校区研究発表会）	1月21日	土曜防災訓練
	1月17日 1月19日	ISS 事前指導 第5回 ISS 校区子ども会議	1月24日	地域避難訓練
2 0 1 7 年 度	6月30日	第1回 ISS 校区子ども会議	5月11日	地区別集会・集団下校
	7月15日	松原市子ども議会	5月19日	5年生防犯教室
	8月25日	第2回 ISS 校区子ども会議	6月13日	不審者対応避難訓練
	8月28日	松原市生徒会児童会交流会	6月13日	救命講習
	11月13日	ISS 本審査	6月17日	土曜防災訓練

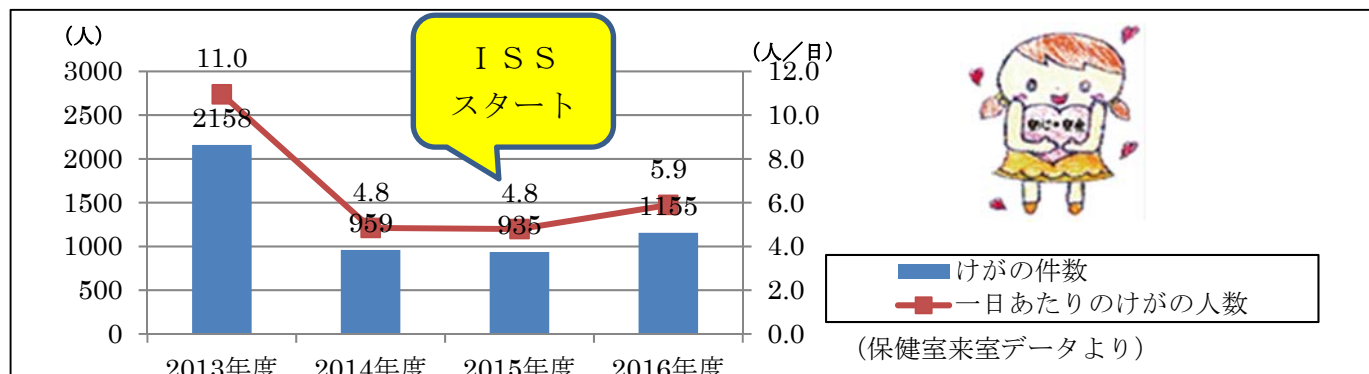
第3章 体と心のけがの状況

1.校内のけが

(1) 軽微なものを含むけがの発生状況

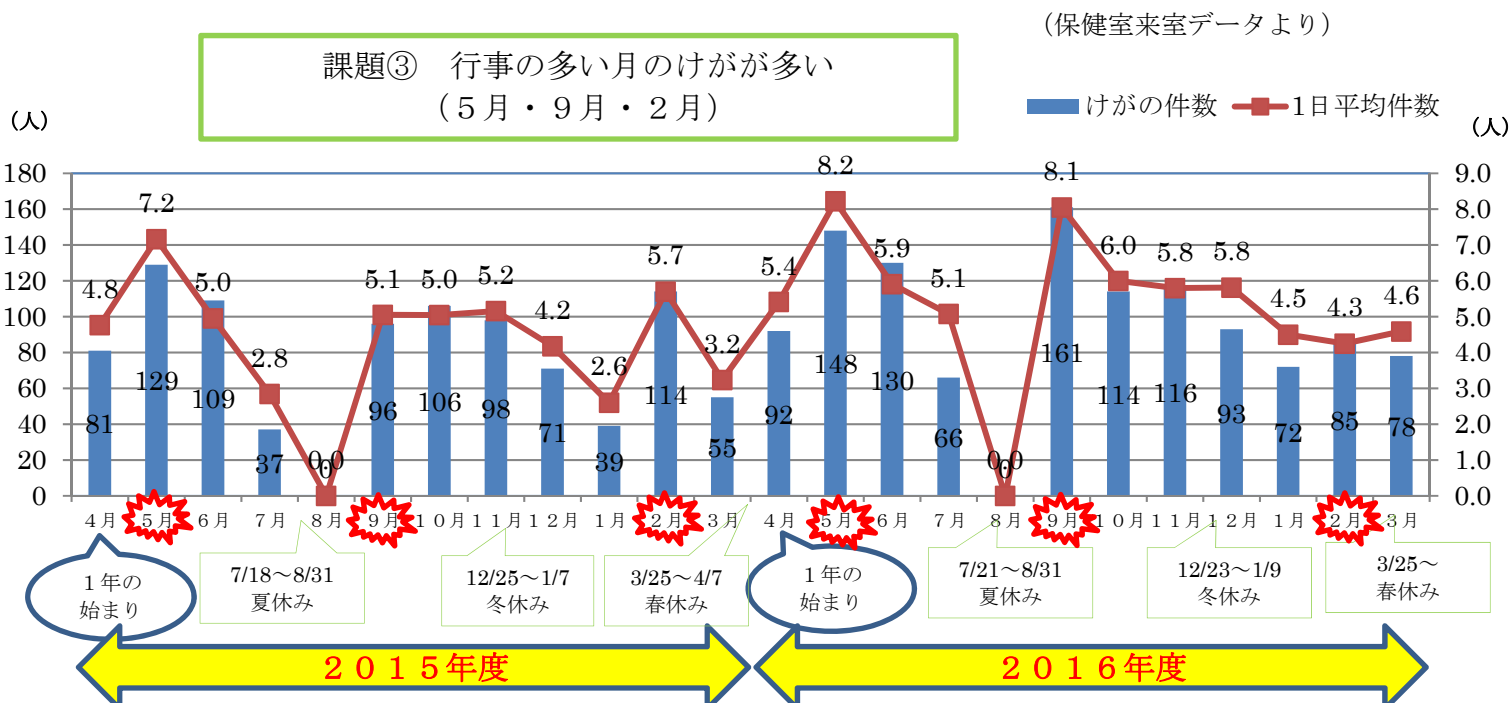
2016年度の校内で発生したけがは1155件で児童1人あたり約2.5件でした。その内、64件が病院を受診したけがです。

【図1-1】 校内で発生したけが（2013～2016年度）



【図1-1】は2013年度から2016年度までに校内で発生したけがの件数です。2013年度には、2158件だったけがが、2014年度には959件と減少しました。ISSの取り組みを始めた2015年度には935件と2014年度に減少していた数値を維持しましたが、2016年度には1155件と数値が上がっています。より軽微なけがも含めて減らすことを目指して取り組みを進めています。

【図1-2】 月別けがの件数（2015～2016年度）

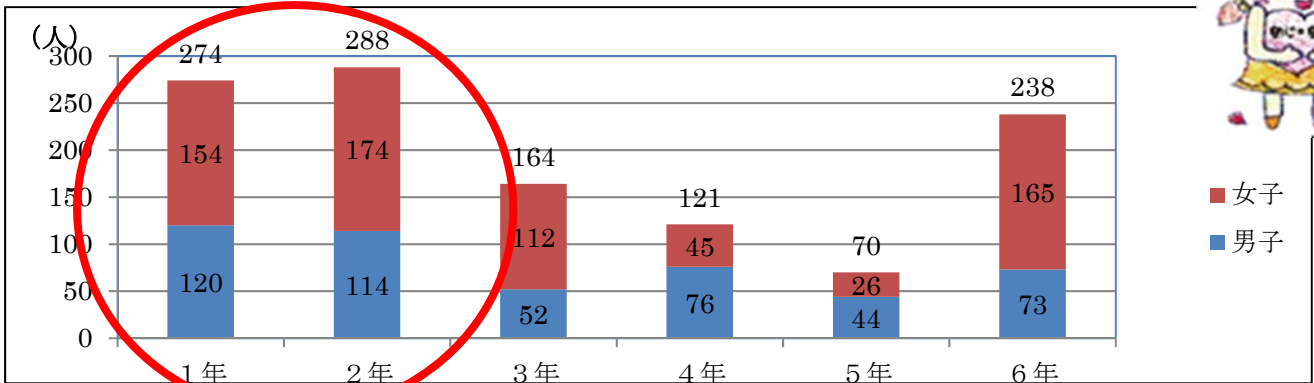


2015年度、2016年度のけがの件数を月別で比較してみました。グラフから新しい学年、クラスに慣れてきて、活動が活発になってくる5月ごろと、体育大会の練習が始まる9月、10月ごろ、気温が下がり体の動きが鈍くなる2月にけがが多いことがわかりました。日本では、新年度は4月から始まります。

【図1-3-①】 学年別・男女別 (2016年度)

(保健室来室データより)

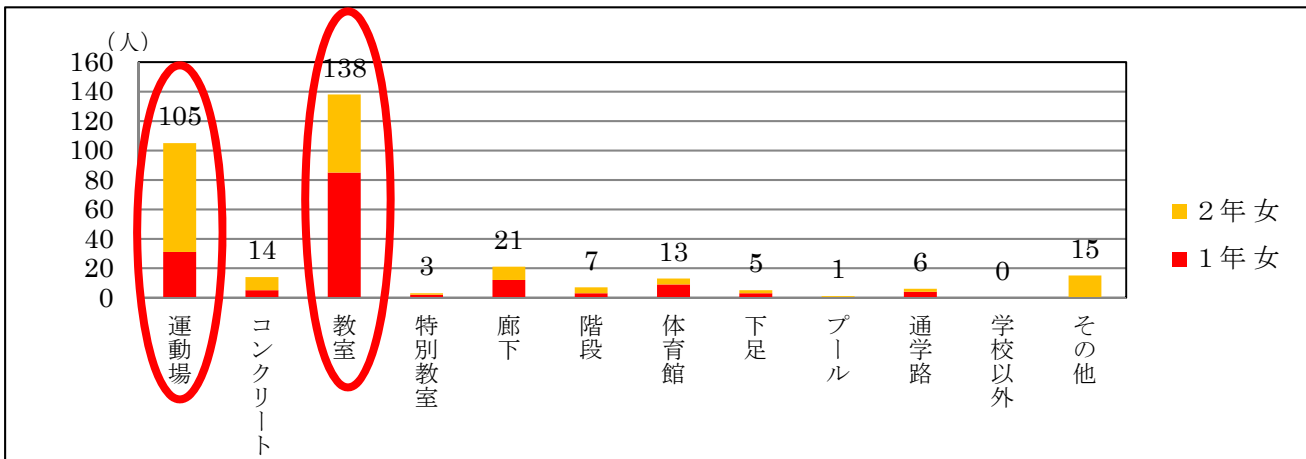
特徴① 1・2年生のけがが多い。特に女子が多い。



学年別で比べてみると、1・2年生のけがが多いことがわかりました。特に女子の方が多くみられました。

【図1-3-②】 1・2年生の女子がけがをした場所 (2016年度)

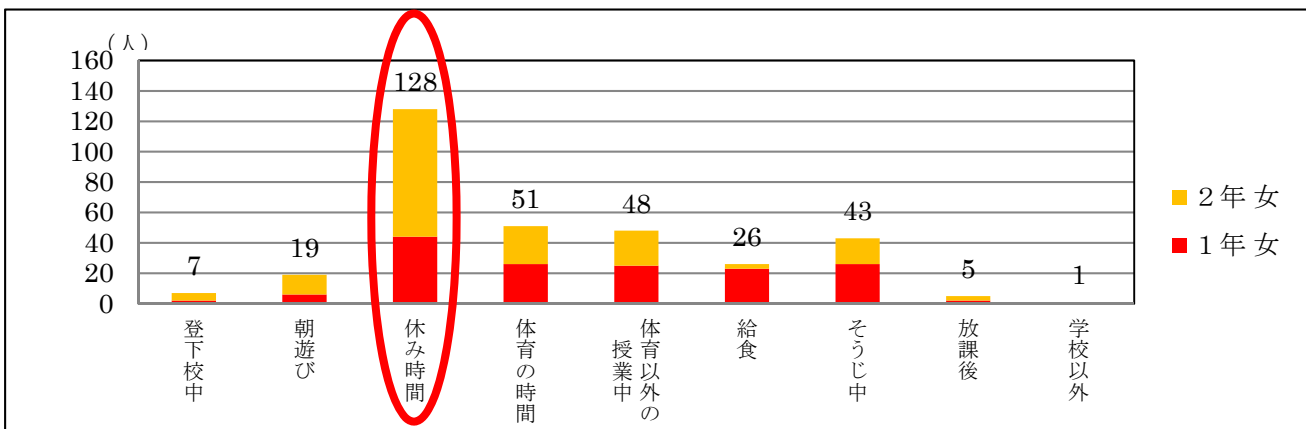
(保健室来室データより)



1・2年生の女子がけがをした場所を調べてみると、1番多いのが教室のけが、次に運動場のけがが多いことがわかります。

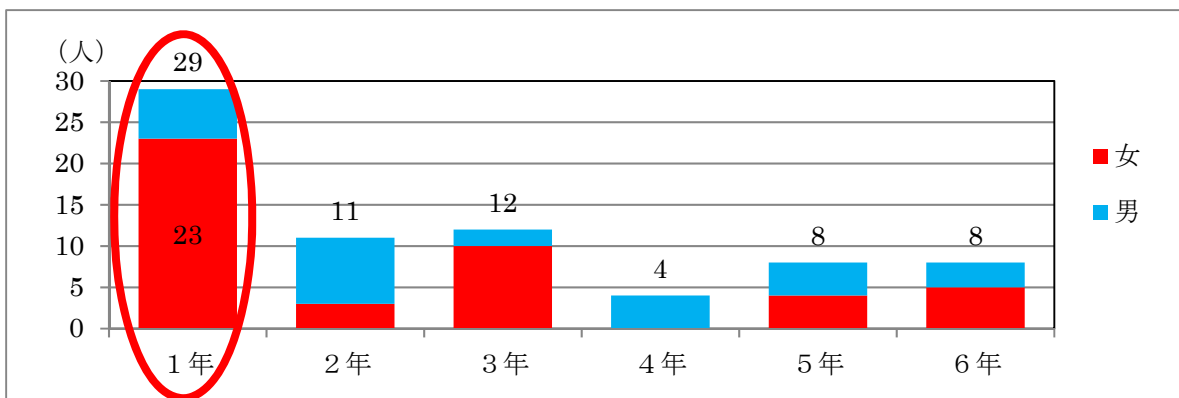
【図1-3-③】 1・2年生の女子がけがをした時間帯 (2016年度)

(保健室来室データより)

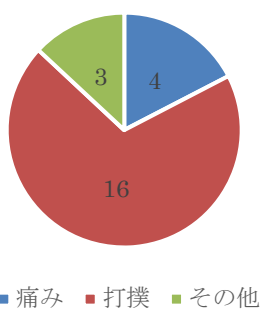


1・2年生の女子がけがをした時間帯を調べてみると、休み時間のけがが圧倒的に多いことがわかります。

【図1-3-④】 学年別の給食の時間のけが（2016年度）（保健室来室データより）

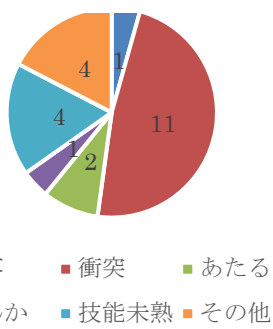


【図1-3-⑤】 1年生女子の給食の時間のけが名



(保健室来室データより)

【図1-3-⑥】 1年生女子の給食の時間のけがの原因

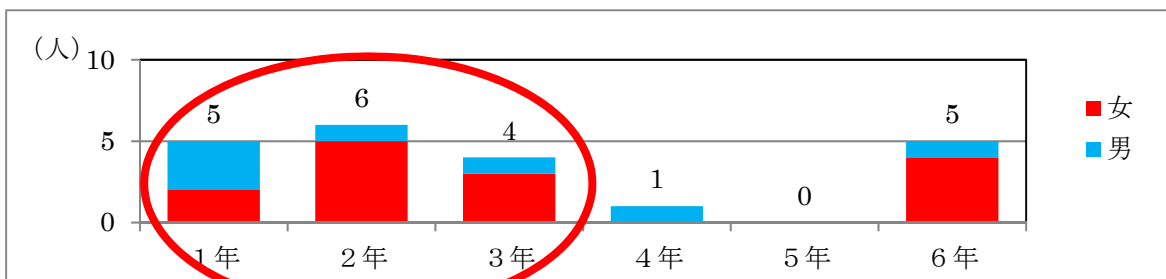


(保健室来室データより)

給食の時間のけがを学年別に調べてみると、1年生での給食の時間のけがが多い。

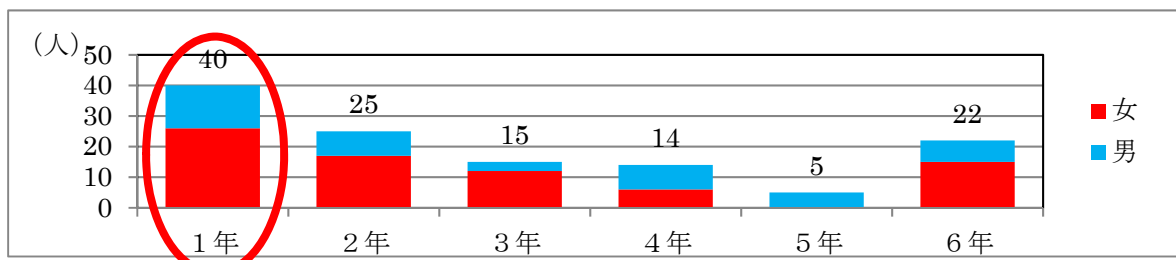
特に1年生の女子のけがが多いです。給食のけがはやけどなど大きなけがにもつながる可能性があります。給食の準備に慣れてないことやまだまだ筋力が弱いことが考えられます。

【図1-3-⑦】 学年別の登下校の時間のけが（2016年度）（保健室来室データより）



登下校のけがについて学年別に調べてみると、1・2・3年生のけがが多いことがわかります。

【図1-3-⑧】 学年別のそうじ中のけが（2016年度）（保健室来室データより）

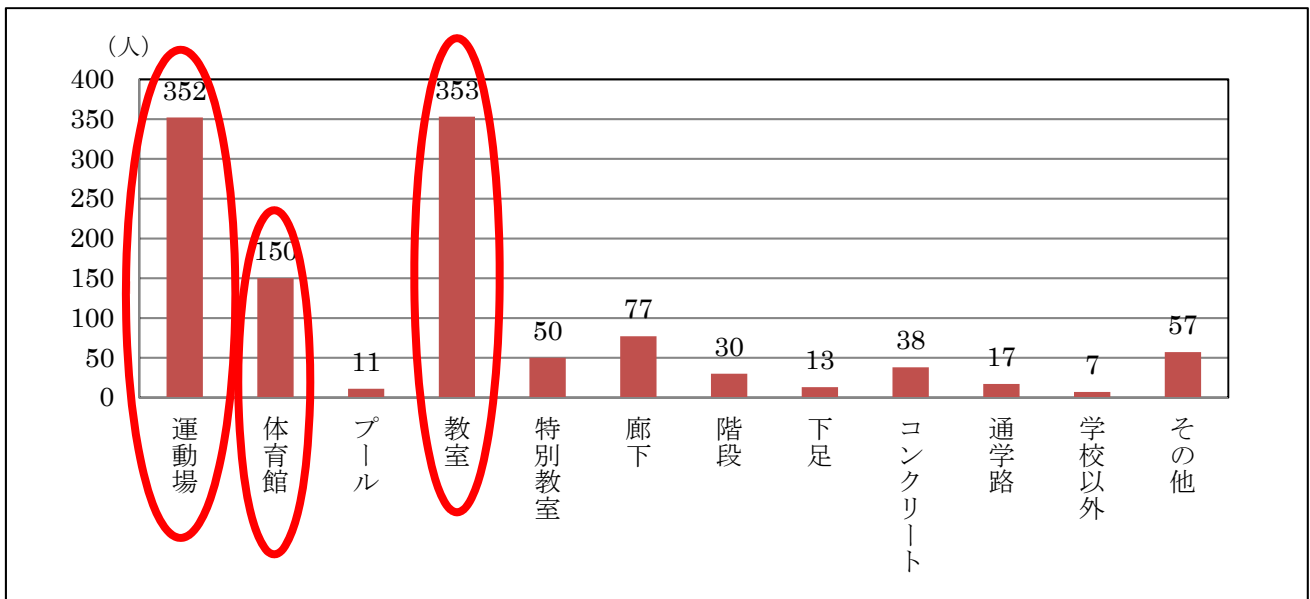


そうじ中のけがを学年別に調べてみると、1年生でのけがが多いことがわかります。特に1年生の女子のけがが多いです。

【図1-4】 場所別（2016年度）

（保健室来室データより）

特徴② 運動場・体育館・教室のけがが多い



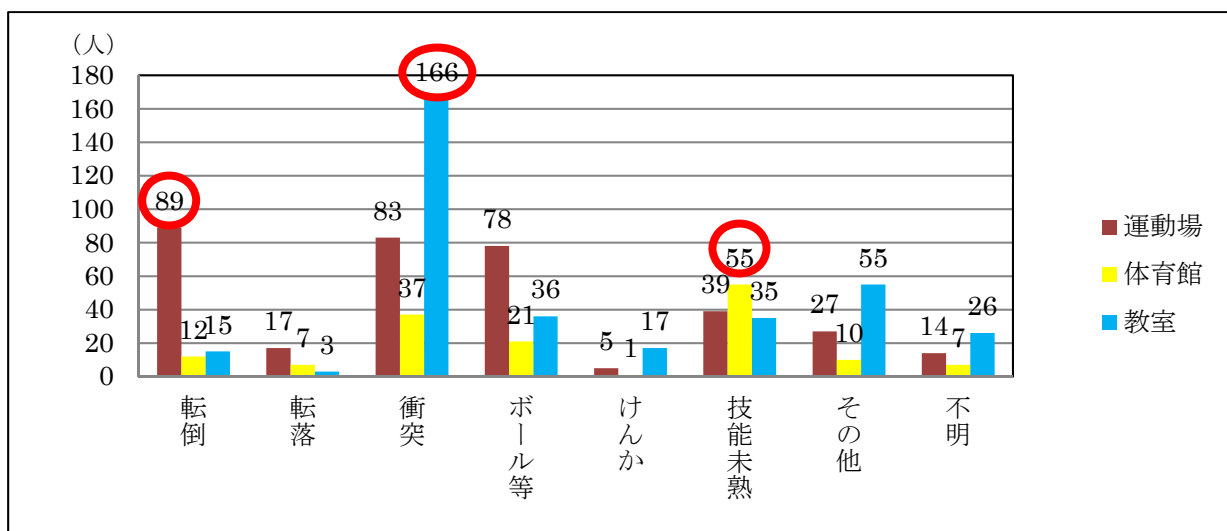
場所別で比べてみると、教室、運動場、体育館の順でけがが多いことがわかりました。

➡ 運動場・体育館・教室のけがの原因を調べました。

【図1-5】 運動場・体育館・教室でのけがの原因（2016年度）

（保健室来室データより）

特徴② 運動場では、転倒が圧倒的に多い。
 体育館では、技能未熟が多い。
 教室では、衝突が多い。



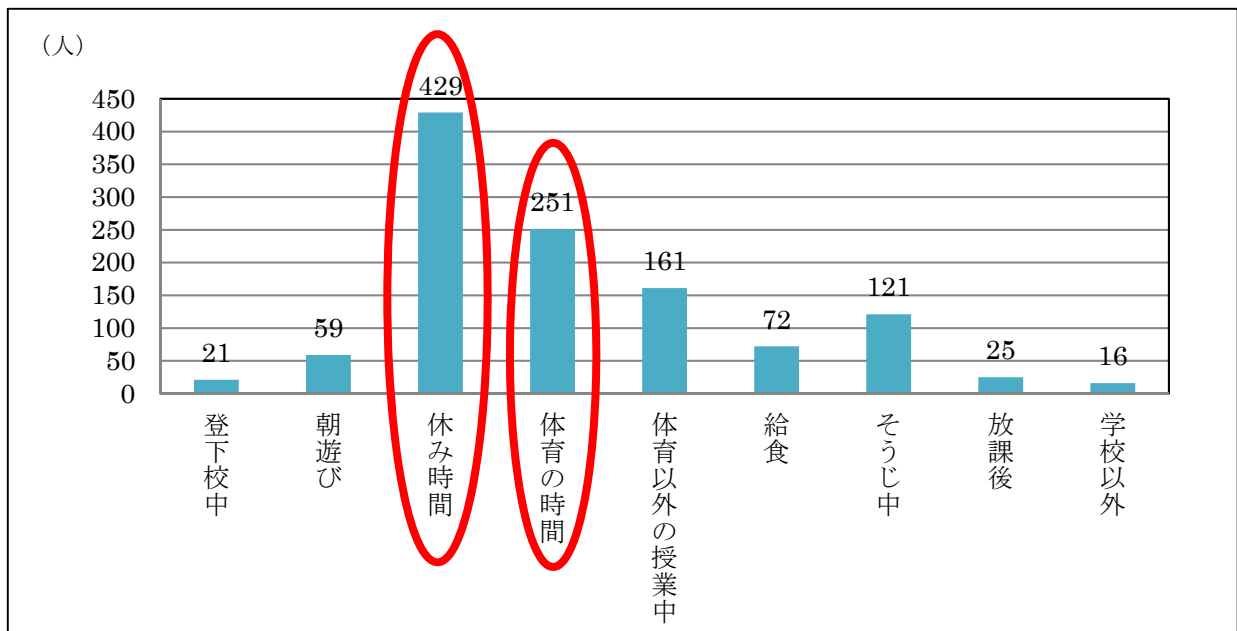
けがの多かった運動場、教室、体育館でのけがを原因別で詳しく比べてみると、運動場では転倒したけがが圧倒的に多いことがわかりました。また、体育館では、体育の授業での技能未熟が原因のけがが多く、教室では、衝突によるけがが多いことがわかりました。

※技能未熟とは、知識がなかったり、筋力が弱かったりして、自分の体重が支えきれずけがをすること。

【図1-6】時間帯別（2016年度）

（保健室来室データより）

特徴③ 休み時間・体育の時間のけがが多い



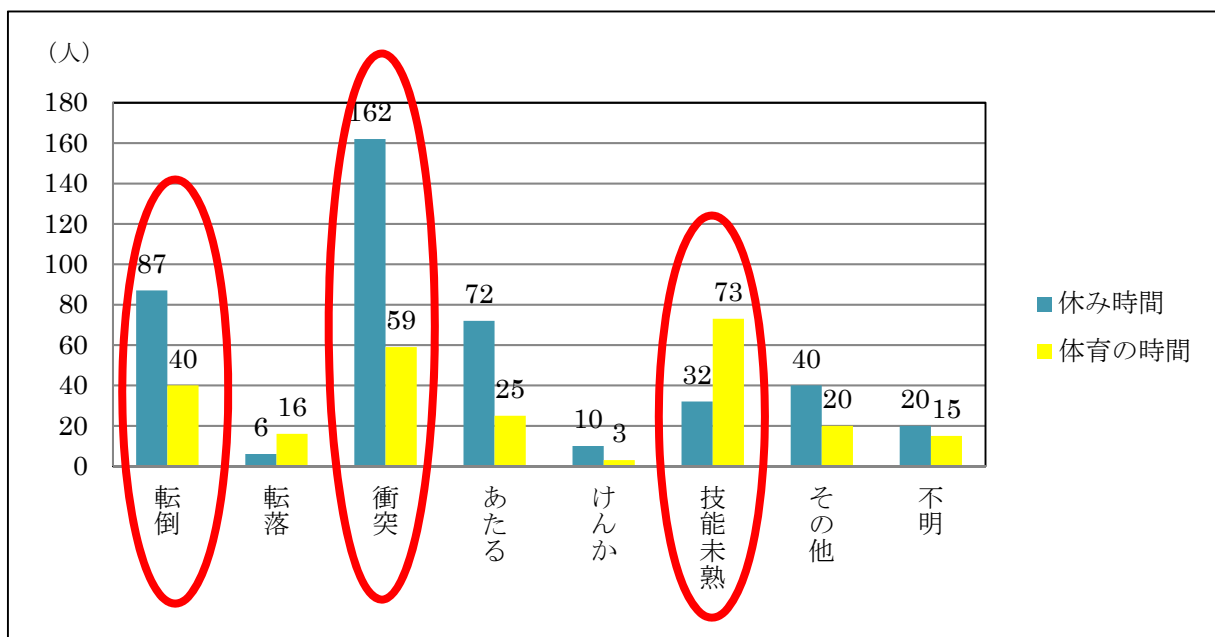
けががいつ起きているのか、時間帯別で比べてみると、休み時間のけがが1番多く、全体のけがの約半数を占めていることがわかりました。次いで体育の時間が多いことがわかりました。

➡ 休み時間と体育の時間だけを選んでけがの原因を調べました。

【図1-7-①】休み時間・体育の時間でけがの原因（2016年度）

（保健室来室データより）

特徴③ 休み時間＝転倒・衝突
体育の時間＝転倒・衝突・技能未熟



→ 休み時間と体育の時間だけを選んでけがの場所を調べました。

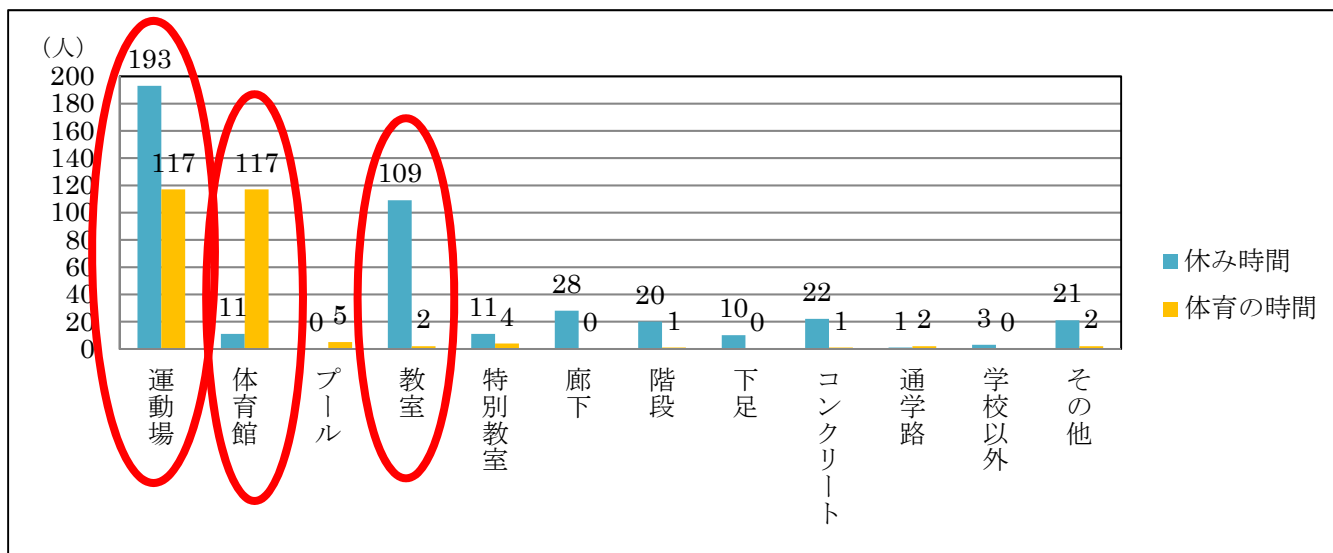
(保健室来室データより)

【図1-7-②】 休み時間・体育の時間でのけがの場所 (2016年度)

休み時間＝運動場・校舎内

※教室・特別教室・廊下・階段・下足を校舎内としました

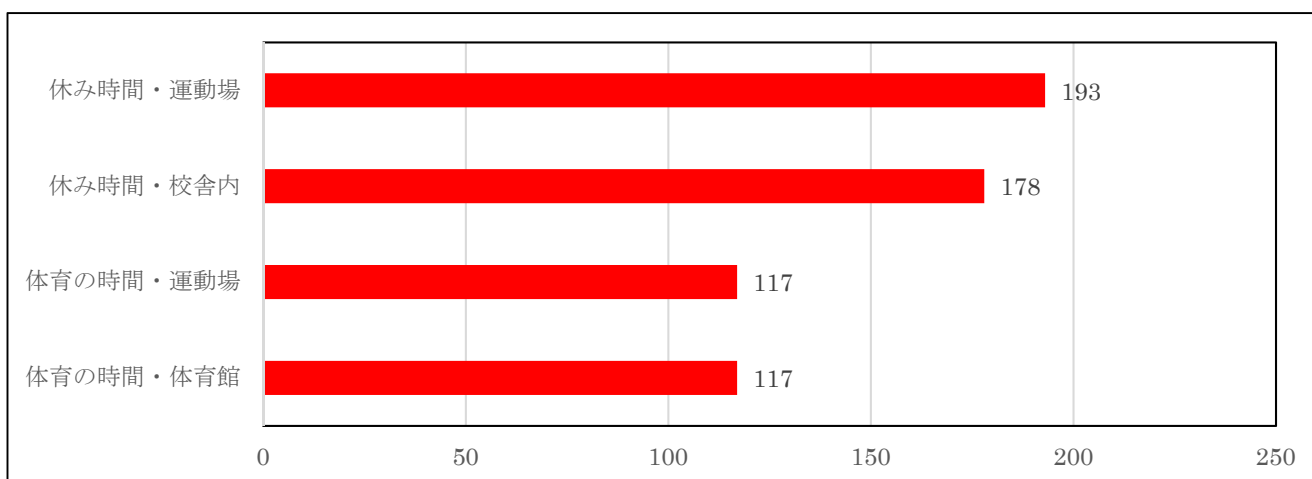
体育の時間＝運動場・体育館



→ 時間帯・場所・けがの原因をクロスして、課題が明らかになってきました。

【図1-8】 休み時間・体育の時間のけがの発生場所とけがの原因 (2016年度)

(保健室来室データより)



けがが多い時間帯・場所・けがの原因

- 休み時間・運動場 = 転倒・衝突・あたる
- 休み時間・校舎内 = 衝突
- 体育の時間・運動場 = 転倒・転落・衝突・あたる
- 体育の時間・体育館 = 転倒・衝突・技能未熟

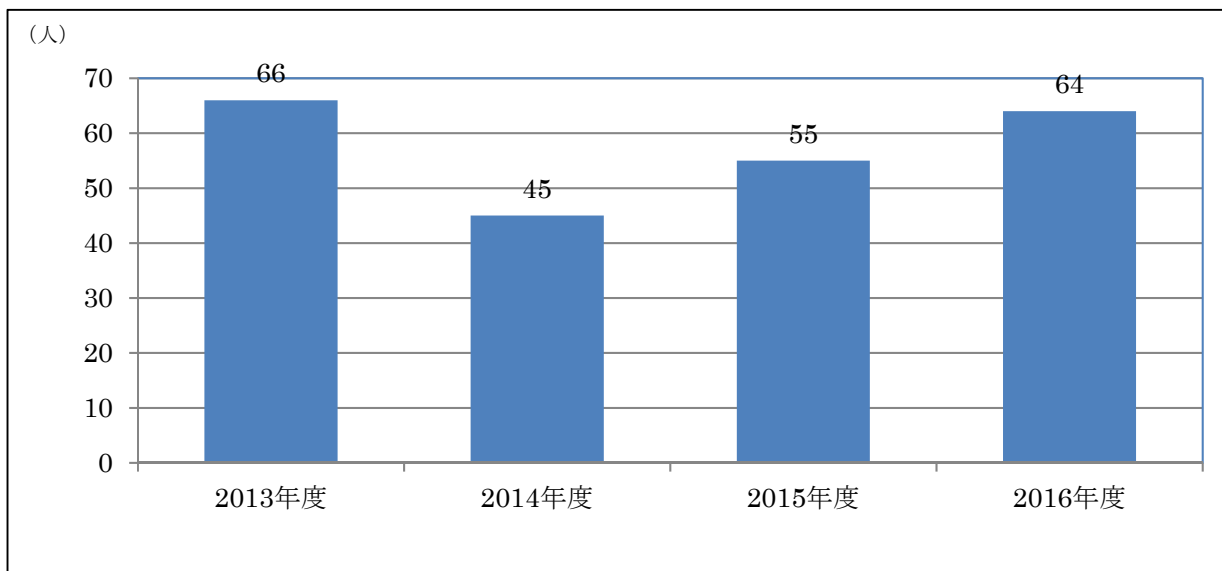
(2) 通院を要するけがの発生状況

2013年4月から2016年までの3年間で、通院を要するけが（日本スポーツ振興センター申請）の状況を集計すると、下記のとおりでした。

【図2-1】年度別災害発生件数（2013年度～2016年度）

（日本スポーツ振興センター申請数より）

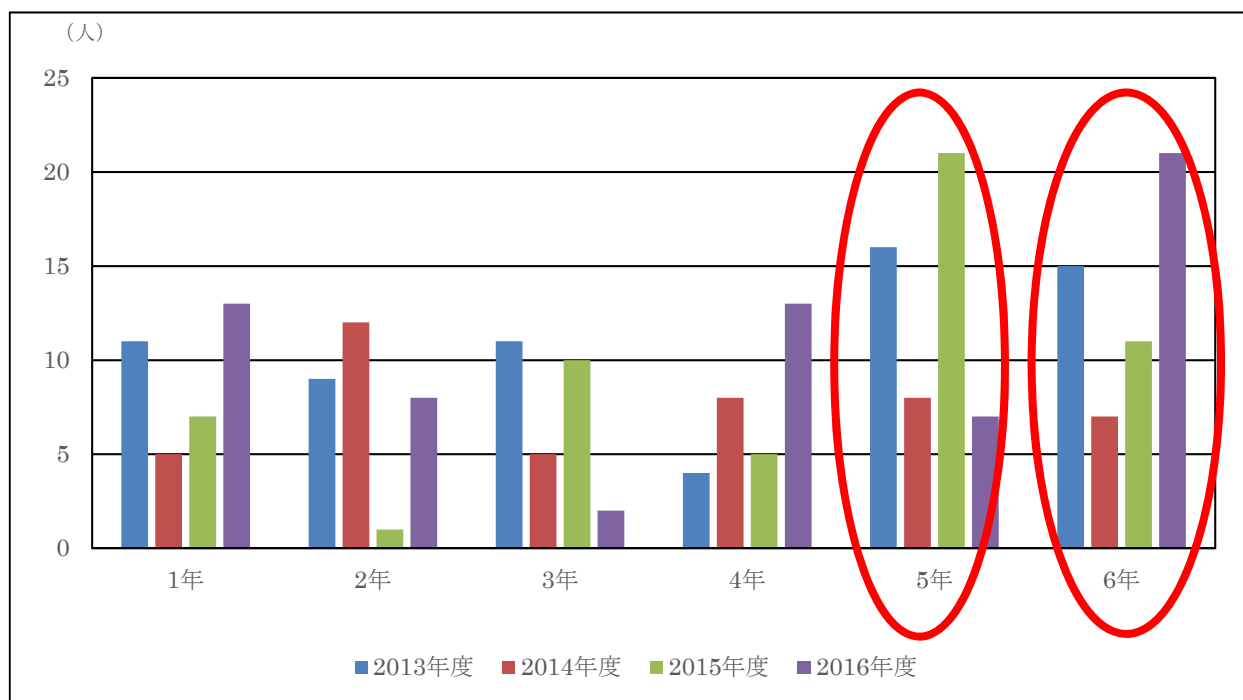
けがの全体数は減っているが、通院を要するけがは、それほど減っていない



【図2-2】学年別災害発生件数（2013年度～2016年度）

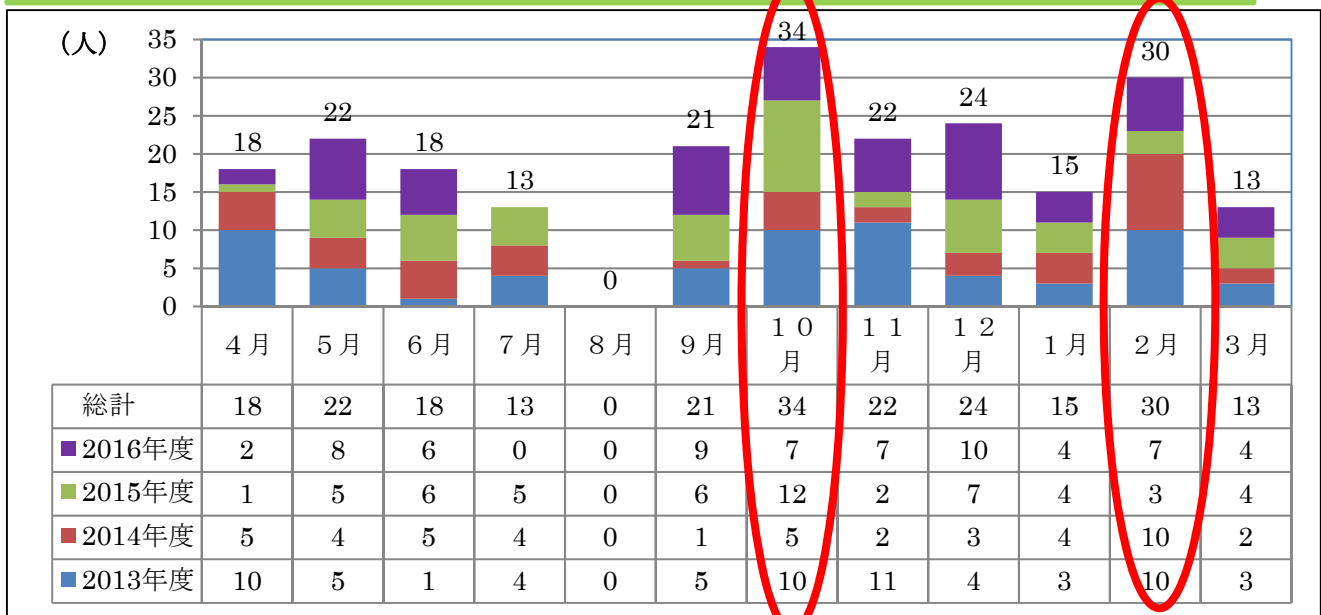
（日本スポーツ振興センター申請数より）

特徴④ 通院を要するけがは高学年（5・6年）が多い

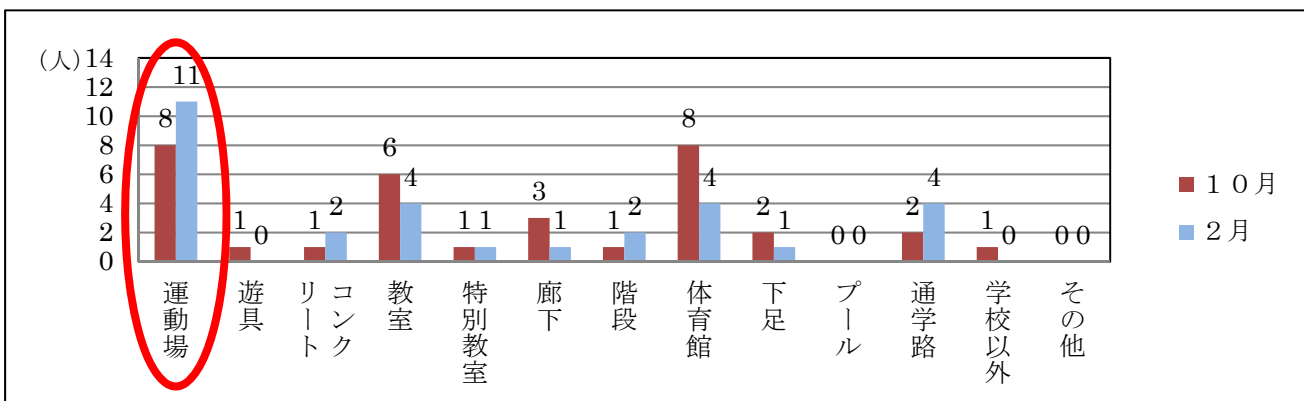


【図2-3-①】 月別発生件数（2013年度～2016年度）（日本スポーツ振興センター申請数より）

課題③ 行事（体育大会・マラソン）がある月のけが多い（10月・2月）

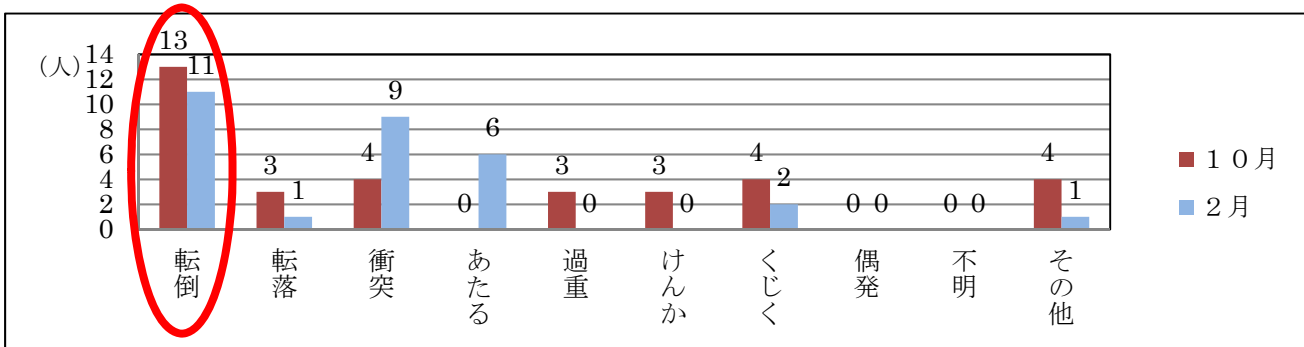


【図2-3-②】 10月・2月のけが ～場所別～（2013年度～2016年度）



場所別に10月・2月のけがを分析すると、運動場でのけが多い。10月には、体育館、教室でのけががそれに次いで多い。

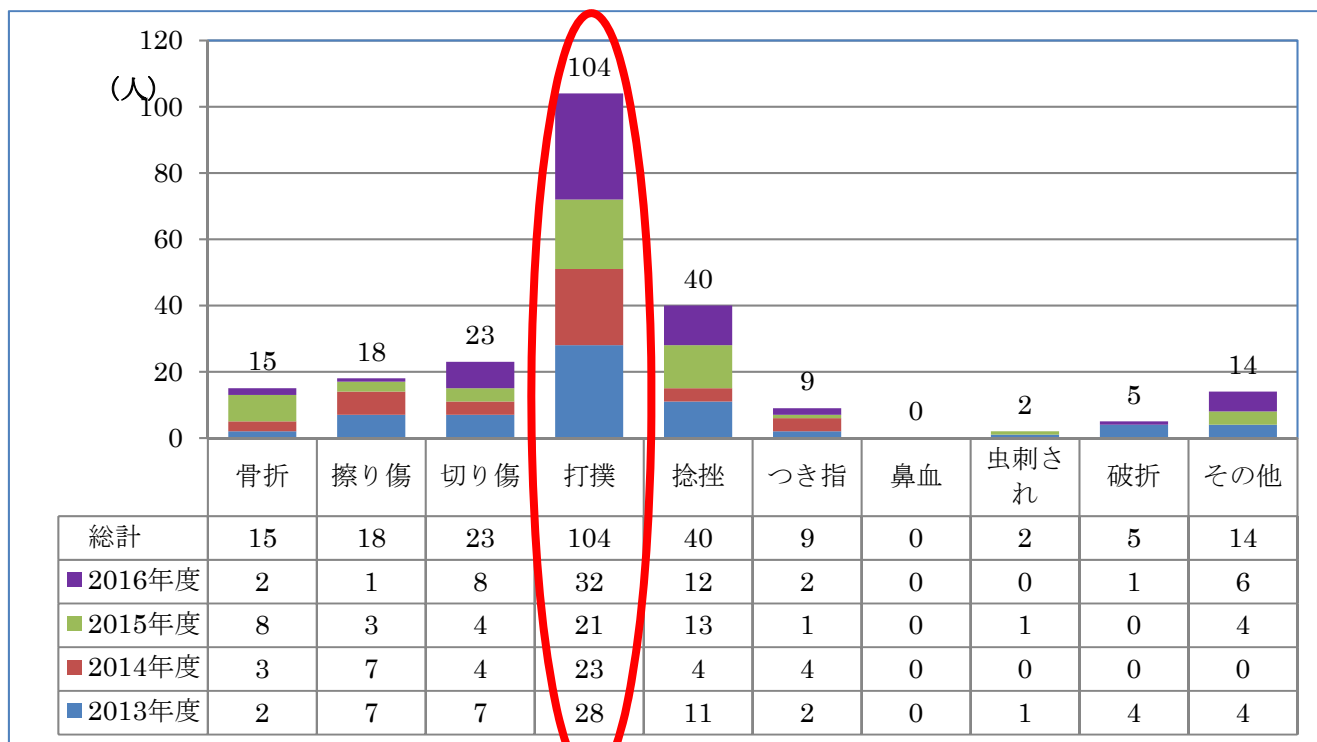
【図2-3-③】 10月・2月のけが ～原因別～（2013年度～2016年度）



原因別に10月・2月のけがを分析すると、ともに転倒が多い。2月には人との衝突、ものにあたるなどがそれに次いで多い。

【図2-4】通院を要するけがの種類（2013年度～2016年度）（日本スポーツ振興センター申請数より）

けがの種類は打撲が多い

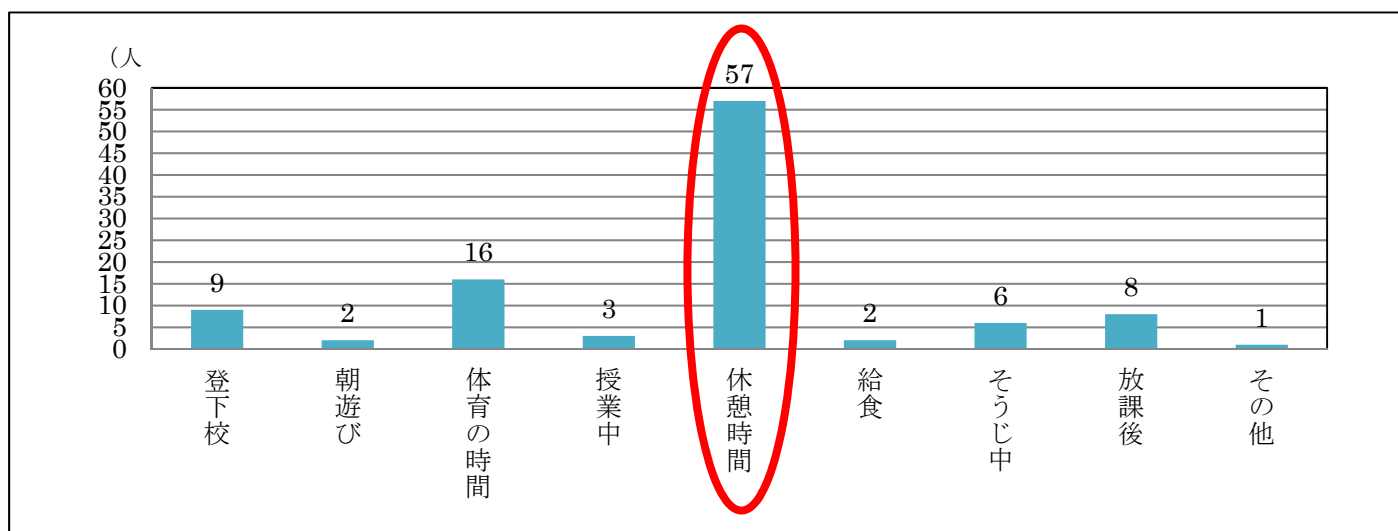


打撲のけがが、どの時間帯に多いか調べました。

（日本スポーツ振興センター申請数より）

【図2-5】通院を要するけがのうち、打撲によるけがの時間帯（2013年度～2016年度）

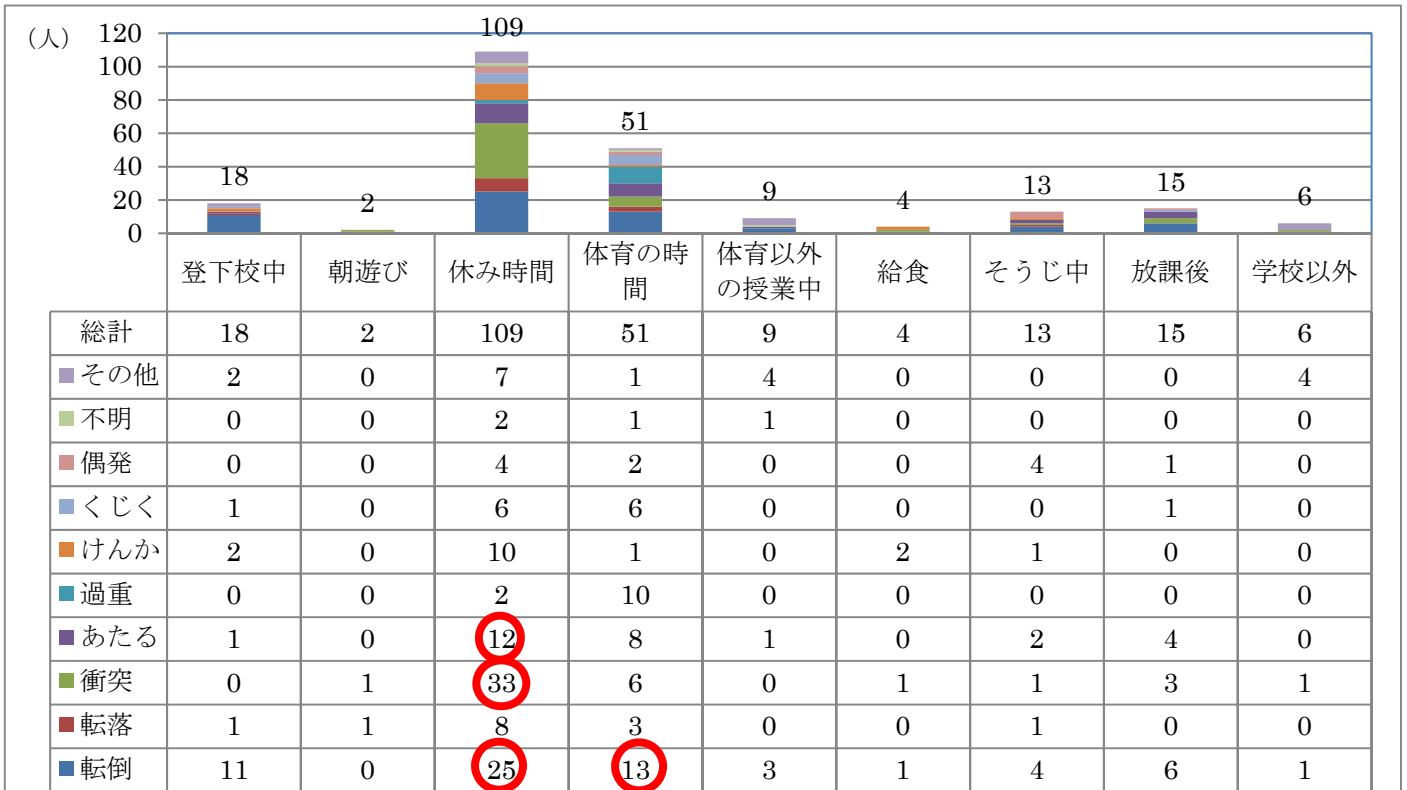
打撲のけがは圧倒的に休み時間に多い



打撲の中でも頭部を打つケースが多く、そのほとんどが、休み時間に教室内や廊下で走り回ったり、あわてて移動をする際に転倒したりして起きていることがわかりました。

【図2-6】 時間帯別・原因別災害発生件数（2013年度～2016年度）

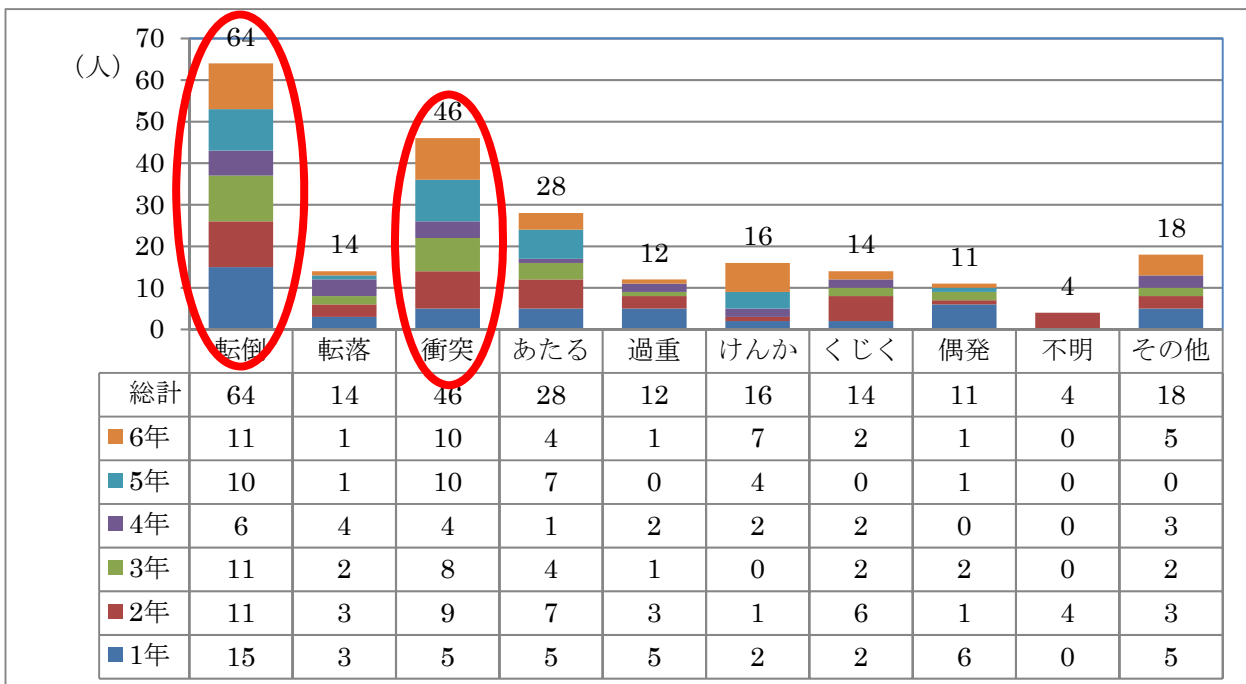
（日本スポーツ振興センター申請数より）



原因別にどの時間帯が多いのかを調べてみると、人との衝突、ボールなどものがあたる、転倒は休み時間に多く、足や手首などをくじくけがや、転倒は体育の時間にマットや跳び箱等の器械運動中に多いことがわかりました。

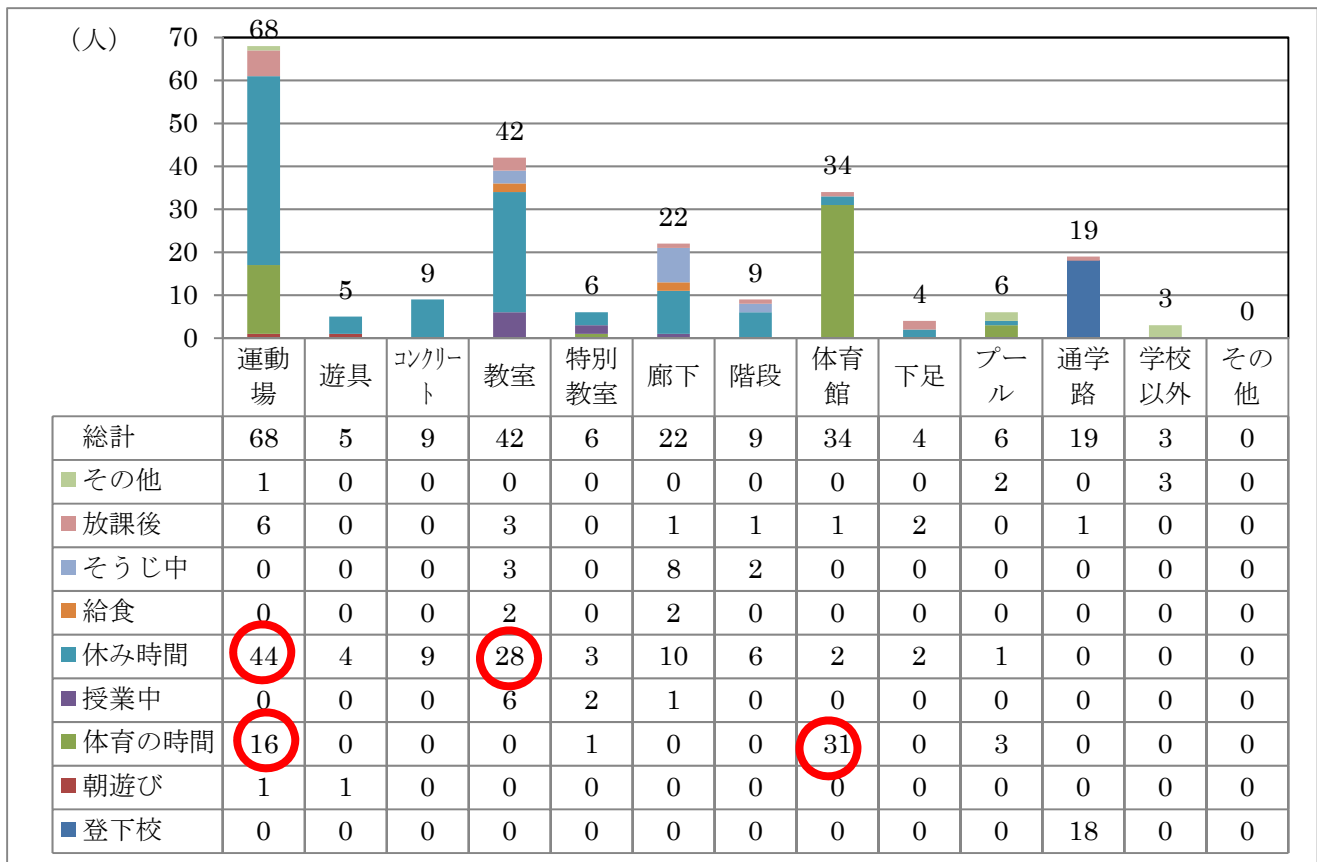
【図2-7】 原因別災害発生件数（2013年度～2016年度）（日本スポーツ振興センター申請数より）

転倒・衝突によるけがが多い



【図2-8】 時間帯別災害発生場所（2013年度～2016年度）（日本スポーツ振興センター申請数より）

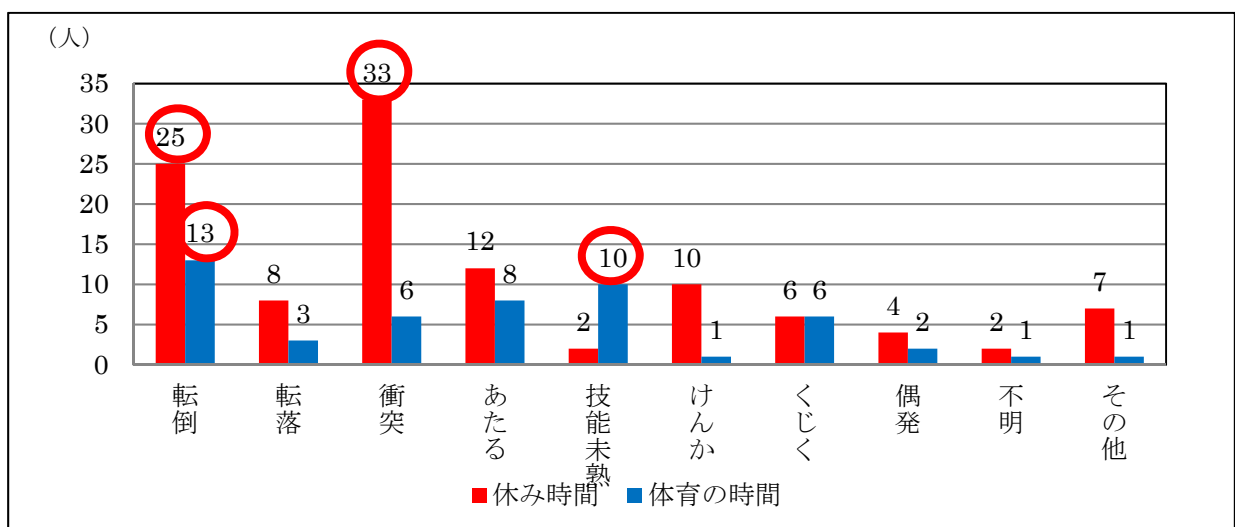
休み時間の運動場・教室と体育の時間の体育館・運動場でのけが多い



【図2-9】 原因別、休み時間・体育の時間のけが（2013年度～2016年度）

➡ 休み時間・体育の時間のけがを原因別に調べました。（日本スポーツ振興センター申請数より）

休み時間では、圧倒的に衝突・転倒が多い
 体育の時間では、転倒・技能未熟が多い



(3) いじめによる心のけが

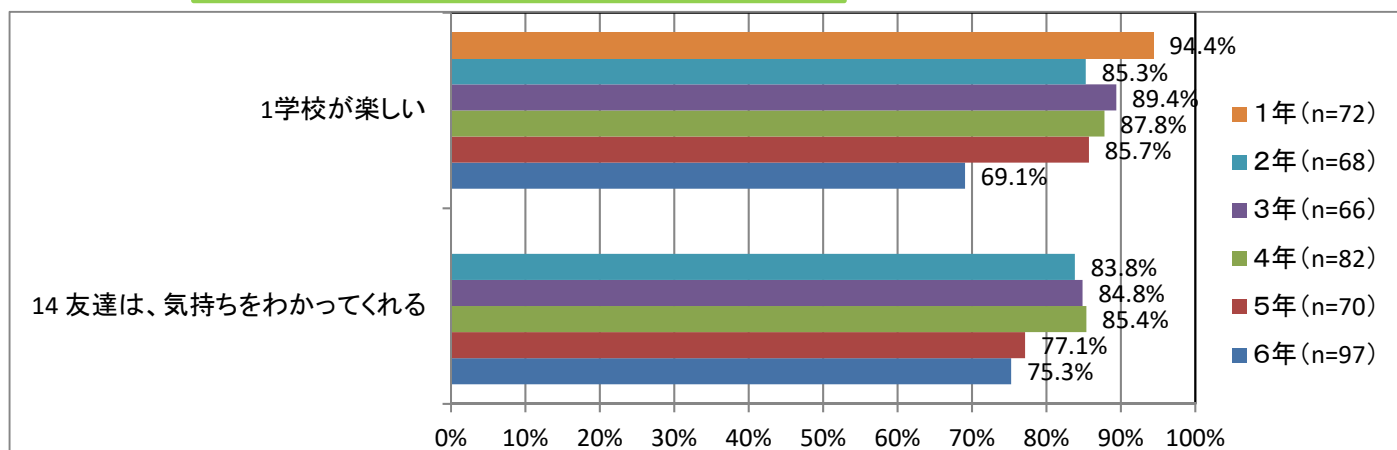
中央小学校では子どもたちの様子をつかむために様々なアンケートを取って分析しています。

【図3-1】は2015年度実施した「学校生活アンケート」(全20項目)で心のけがにつながる特徴的な項目の結果です。

【図3-1】 学年別 心のけがにつながる状況 (2015年度)

(学校生活アンケートより)

特徴⑤ 1年の方が楽しくすごしている

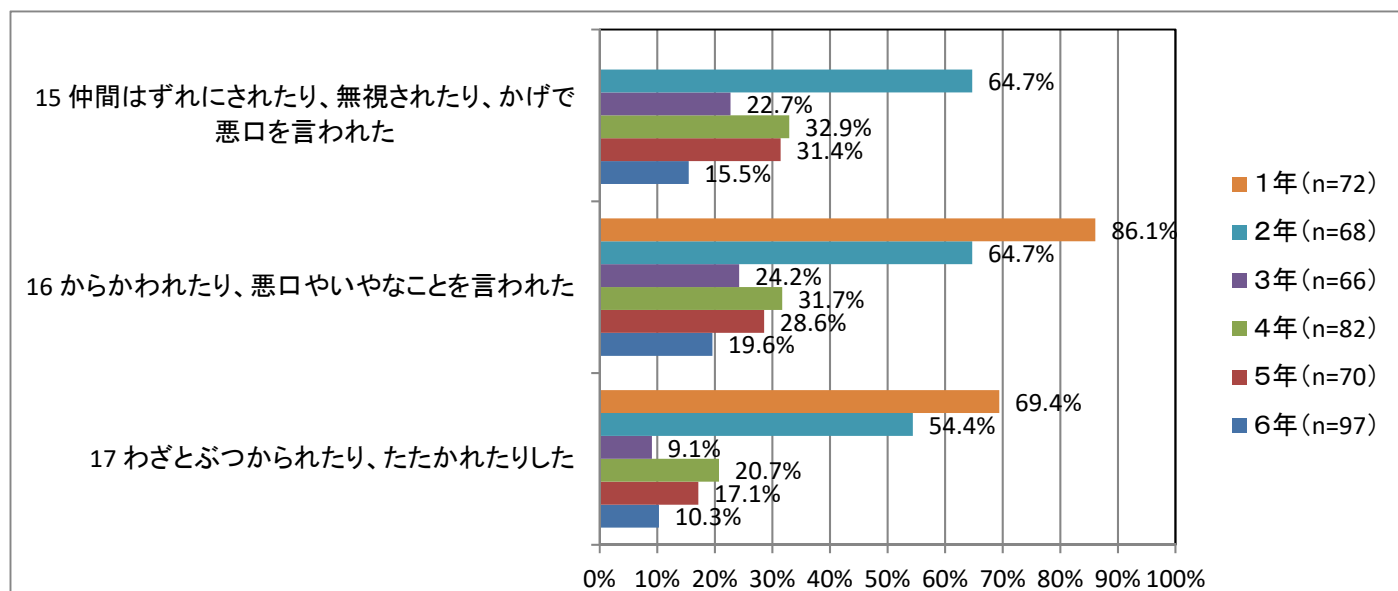


全体の80%~90%の子どもたちが「学校が楽しい」「友だちは気持ちをわかってくれている」と感じている一方で、学年が上がるごとにその人数は減っています。

【図3-2】 学年別 心のけがにつながる状況 (被害的側面) (2015年度)

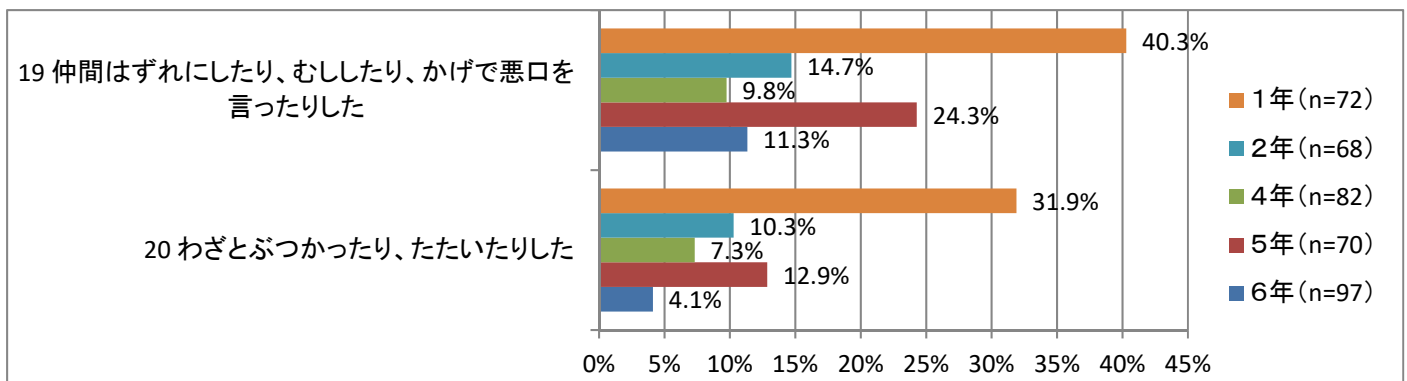
(学校生活アンケートより)

特徴⑥ 被害を感じる児童が低学年に多い。



長い時間を共に過ごす友だちとの関係について聞きました。仲間はずれや陰口、暴力を受けたと感じている児童がたくさんいることがわかりました。

【図3-3】学年別 心のけがにつながる状況（加害的側面）（2015年度）



特徴⑦ 加害は、低学年と5年生に多い。

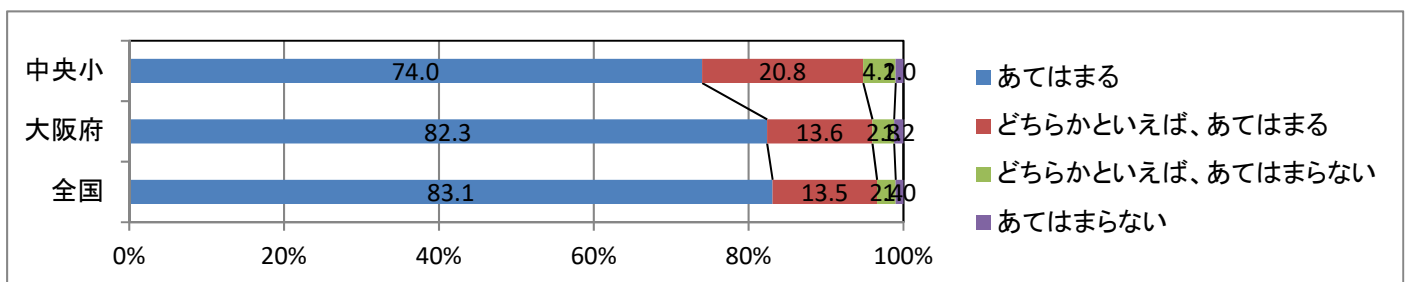
（学校生活アンケートより）

加害的側面を調べてみると、自分の気持ちを上手に伝えることが苦手な低学年児童が仲間はずしや陰口、暴力をしてしまうことが多いこともわかりました。

○心のけがにつながる状況を大阪府や全国のデータと比べてみました。

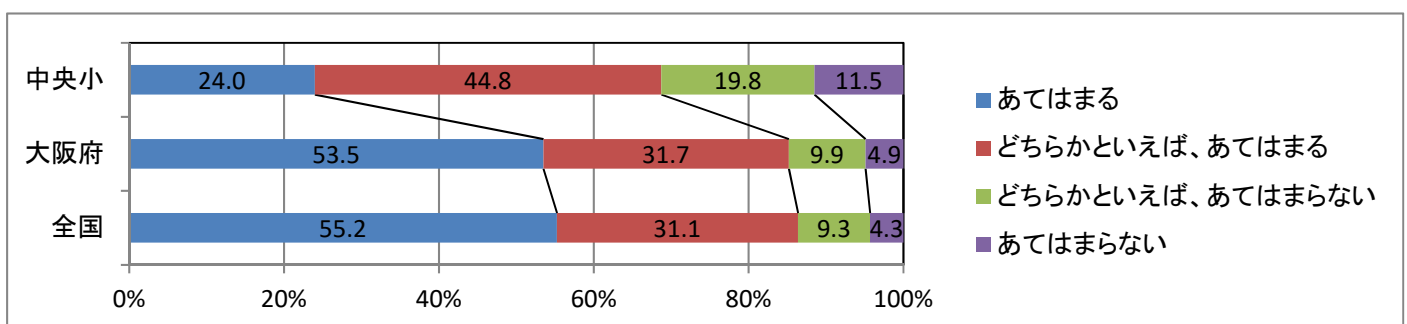
（6年生で実施した全国学力学習状況調査より）

【図3-4】いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか？（2015年度）



（全国学力学習状況調査より）

【図3-5】学校に行くのは楽しいと思いますか？（2015年度）



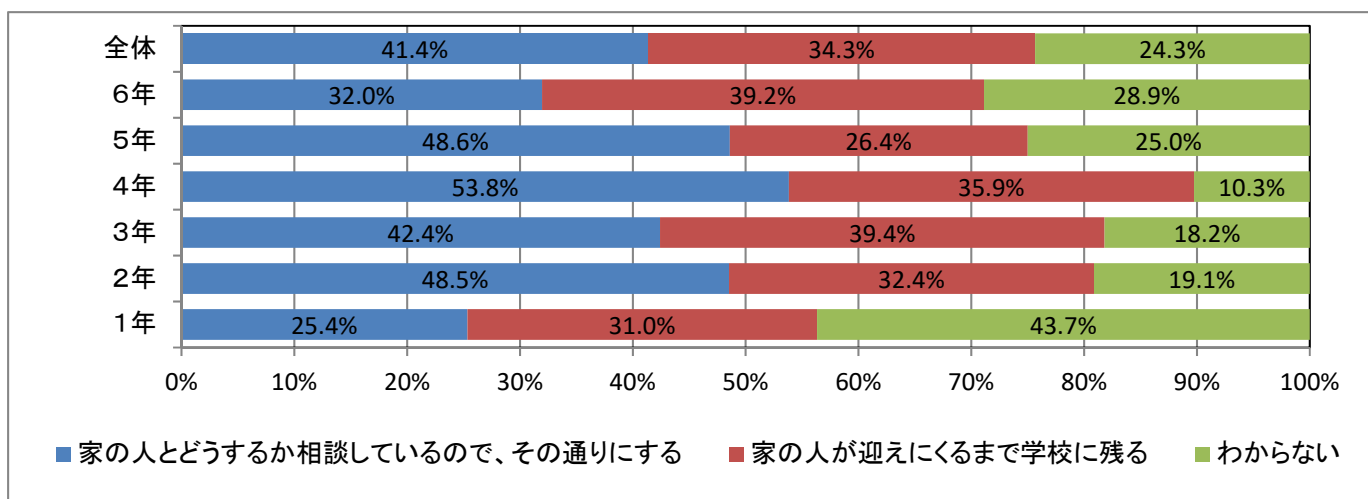
いじめをいけないと思う児童は大阪・全国とあまり変わらないが、学校に行くのが楽しいと思う児童が少ない

（全国学力学習状況調査より）

6年生が4月に実施した全国学力学習状況調査の「いじめ」の項目の中で、「どんな理由があってもいけない」と94.8%の児童が回答していました。全国・大阪府と変わらず、安心できる学校にしたいと思っていることがわかりました。一方「学校が楽しい」と思っている割合は少なく、課題が見られました。

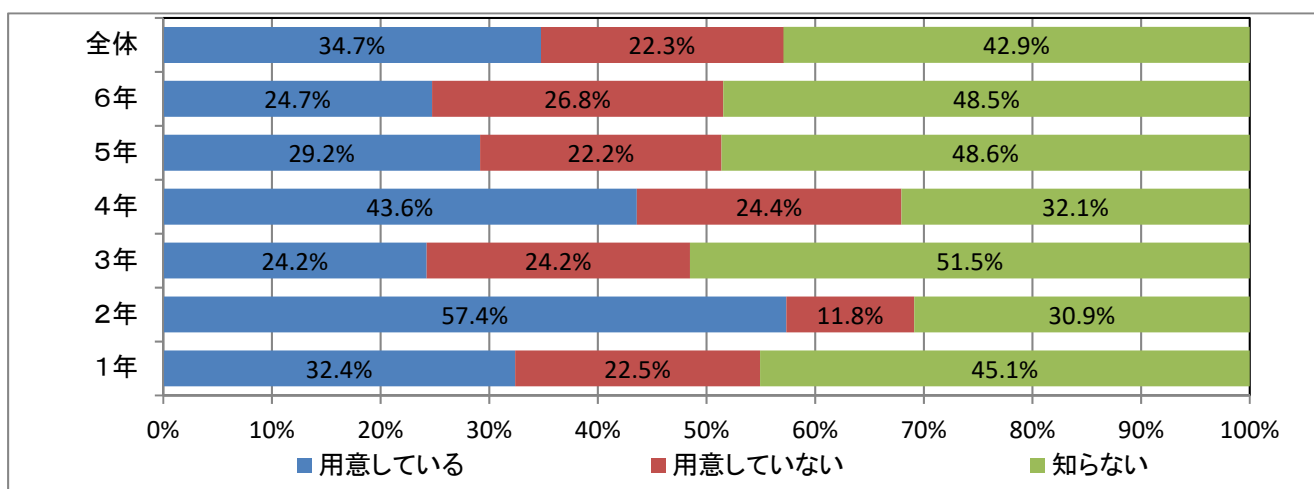
○地震の備えについて（防災アンケートより）

【図4-3】 学校にいるとき地震がおこったら、どうしますか？（2015年度）



学校にいるとき地震がおこったら、どうしますかという設問に対して全体の24.3%（1年生は43.7%）の児童がわからないと答えている。また、水や食糧を用意しているのは34.7%である。

【図4-4】 地震に備えて水や食糧を用意していますか？（2015年度）



特徴⑧ 家庭や地域を巻き込んだ
防災意識が弱い。

防災意識や、いざという時行動できる力を高めるために避難訓練や防災教育を実施しています。

【図4-3】と【図4-4】は防災について児童がどのくらい認識できているのかを調べたアンケートの結果です。学校にいるときには「机の下に体を入れる」「口をハンカチなどでふさぐ」など、自分の身を守る行動がとれる児童でも、保護者との約束、家庭内でどんな防災への理解が弱いことがわかりました。毎年行っている訓練を、家庭や地域と共に実施していく必要性を感じました。

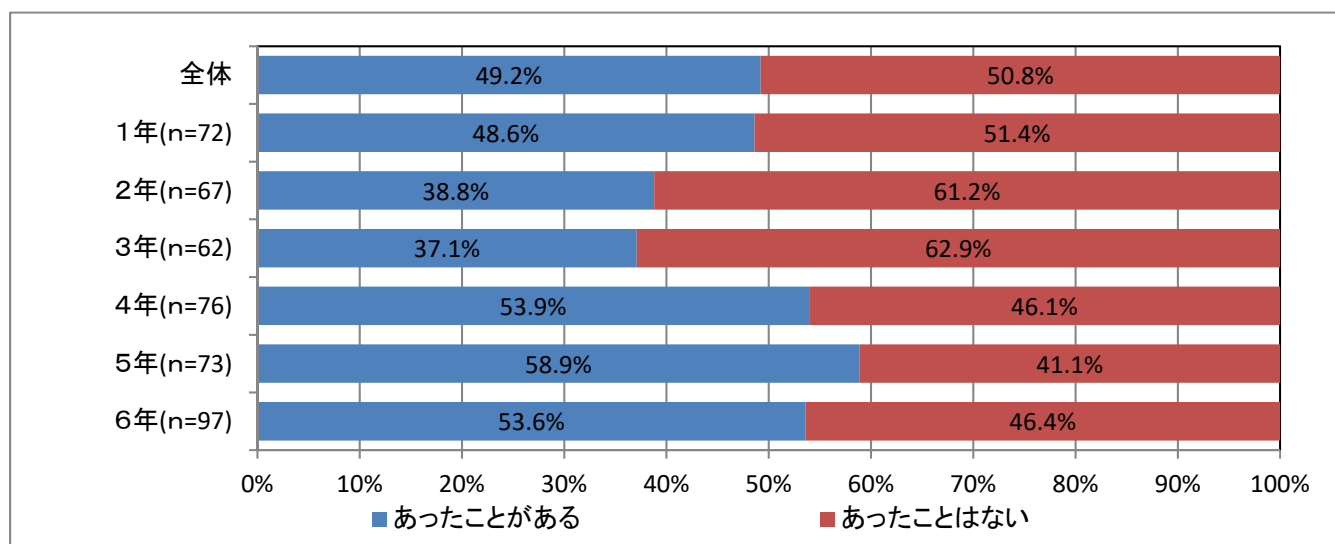
2. 校外のけが

放課後の過ごし方を調べてみると、ヒヤリハット（重大な事故には至らないものの、直結してもおかしくない一歩手前の事例）を経験している児童が全体の半分（49.2%）に上り、実際に事故にあった児童も多いことがわかりました。

《交通事故について》

小学生になって、交通事故にあったことがある児童
11.6%（52名）

【図4-5】 ヒヤリハットの経験（2015年度）

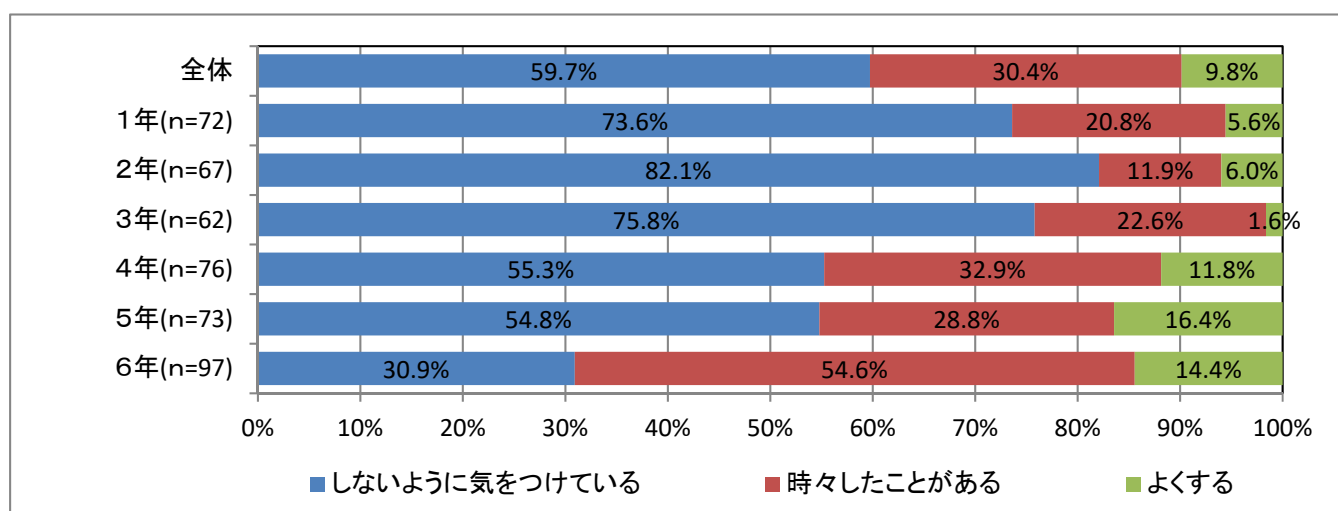


ヒヤリハットの経験のある児童は、全体で49.2%（220人）です。

《自転車について》

放課後や休みの日に自転車に乗る児童は
96.0%（429名）

【図4-6】 自転車の並走（2015年度）



道が狭く、交通量がある道路も多い市内を自転車で移動する児童が全体の96%で、「自転車の並走」については気をつけている児童が59.7%にとどまりました。

【重点課題の整理】

様々なデータやアンケート結果から、児童の安心・安全ために解決すべき重点課題を整理しました。

【表4】

	根拠	解決すべき点 (重点課題)	
(体的けが) 身体的側面	図 1-3 ① ~⑧	課題1 1年生のけがが多い。特に女子が多い。	○休み時間と 授業中のけが の防止 ○指導体制の 改善充実
	図 1-4 図 1-5	課題2 運動場・体育館・教室のけがが多い。 運動場では転倒、体育館では技能未熟、 教室では、衝突が多い。	
	図 1-6 図 1-7-① 図 1-2 図 2-3-①	課題3 休み時間・体育の時間のけがが多い。 休み時間は転倒・衝突、体育の時間は転倒・ 衝突・技能未熟(過重)が多い。 行事の多い月のけがが多い	
	図 2-2	課題4 通院を要するけがは、高学年(5・6年)が多い。	
	(心のけが) 心的側面	図 3-1	
図 3-2		課題6 加害的側面は低学年(1・2年)と5年に多い。	
図 3-3		課題7 高学年になるにつれて、学校を楽しく感じる子ども が減ってくる。	
防災	図 4-3 図 4-4	課題8 家庭や地域を巻き込んだ防災意識が弱い。	○防災意識・ 行動の向上
	図 4-5 図 4-6	課題9 交通事故やヒヤリハットの経験のある児童が 多い。	○交通安全意識 ・行動の向上

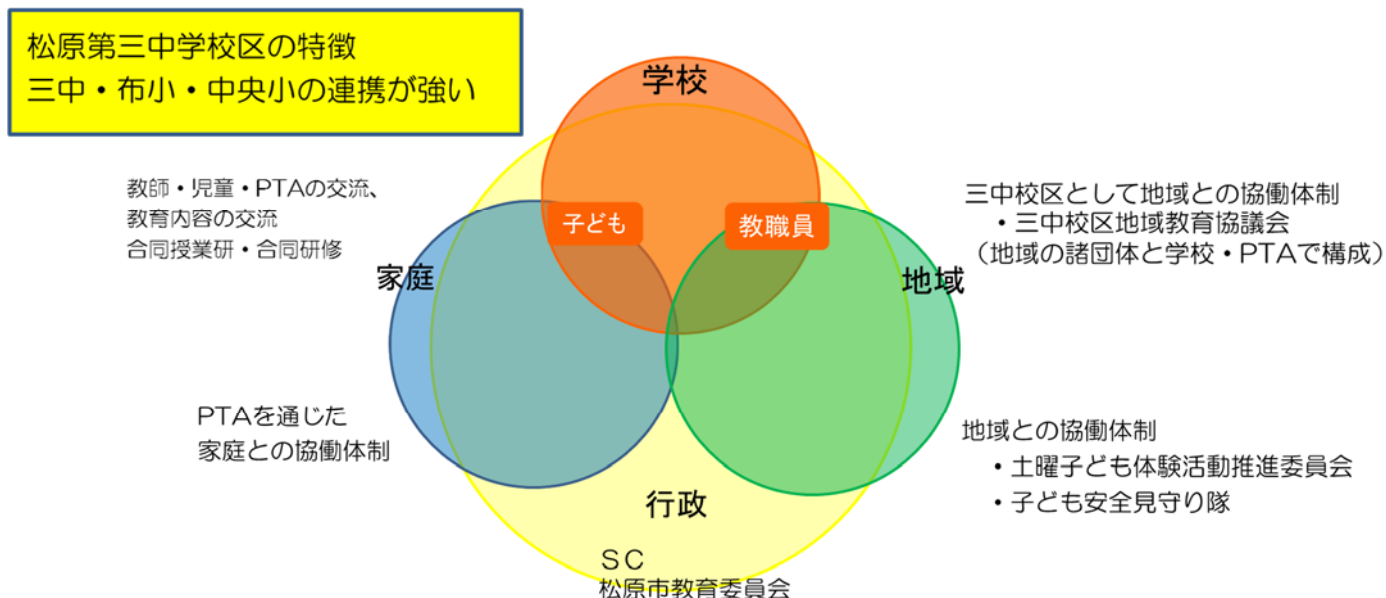
身体的側面では、けがを少なくするために教室での過ごし方や運動場での遊び方についてルールをつくり確認していくこと。心的側面では、児童の人権意識を高め、コミュニケーション力を育成する授業実践をすすめるとともに、日常的に仲間関係を構築する取り組みを進めていくこと。防災・交通安全の面では、児童がより自分自身の課題として学び、地域・保護者の意識も高めるための取り組みを推進していくこと。

以上のことを意識して学校としての取り組みを再構築していくことを確認しました。

第4章 8つの指標に基づいた取り組み

指標1 協働を基盤に安全向上に取り組む運営基盤の整備がされている

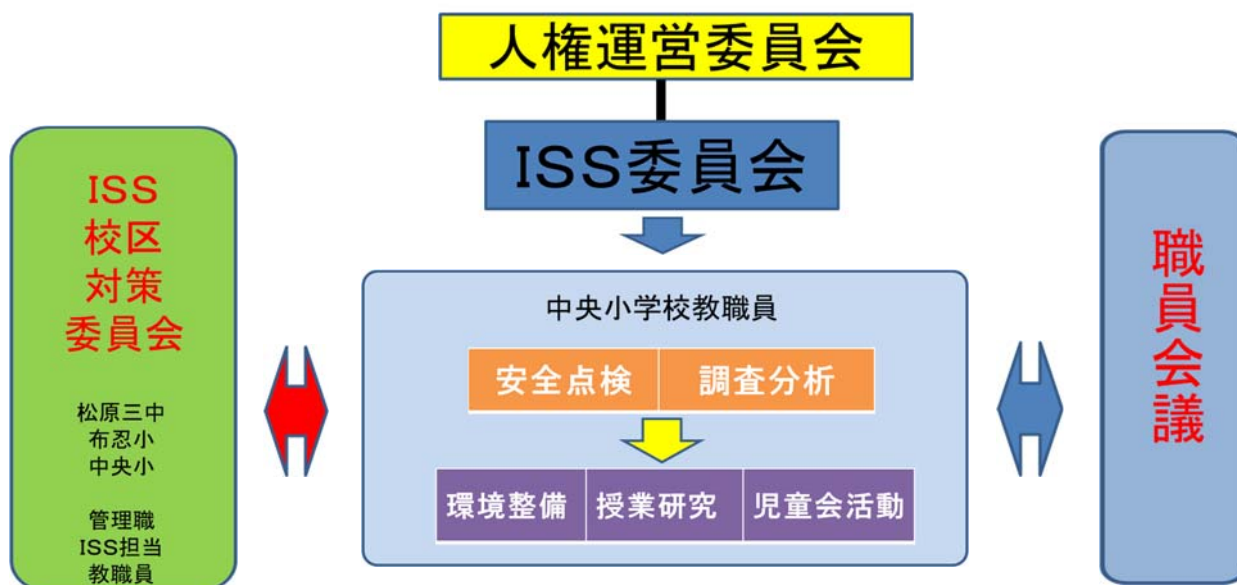
1.1 ISS運営体制イメージ図



松原第三中学校区では地域とのつながりが強く、また、校区間での学校同士のつながりが強いと言えます。本校では、PTA活動がたいへん盛んに行われており、毎週土曜日に行われる「はっぴいサタデー」の取り組みには、たくさんの児童が参加しています。

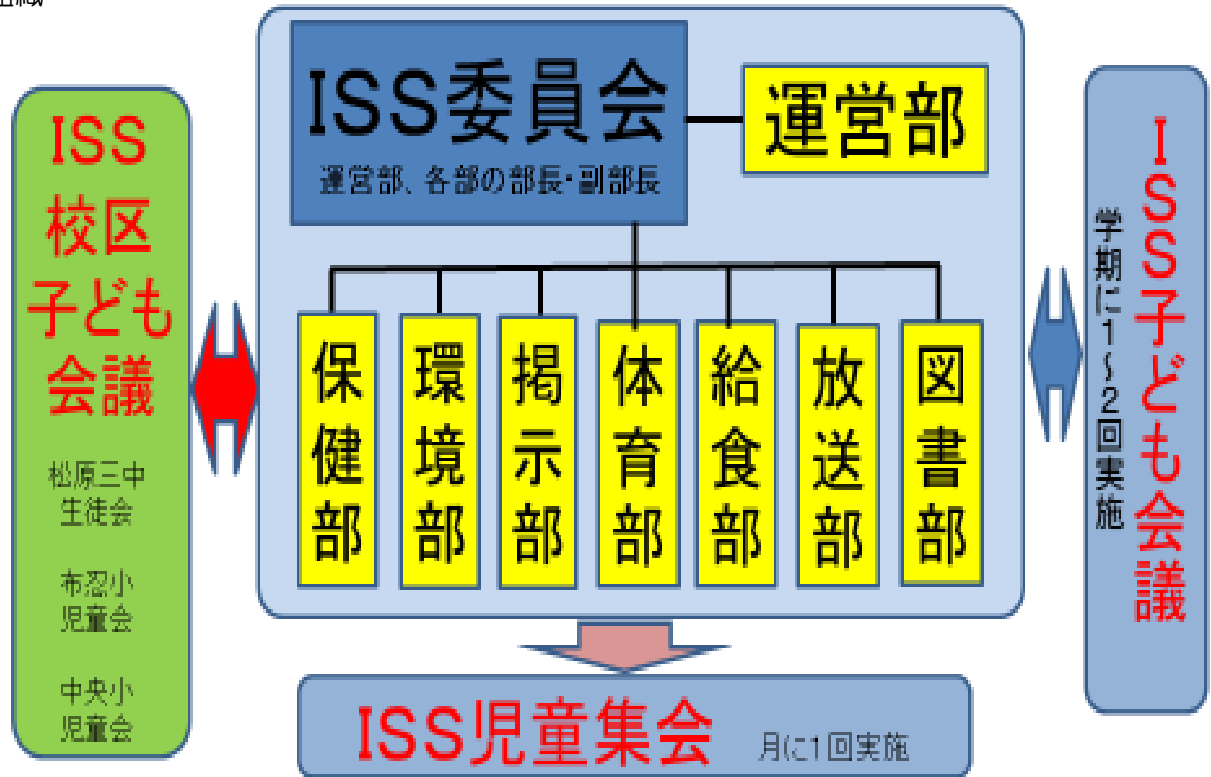
日常の学習の場面でも保護者や地域の方がゲストとして参加して下さることもあります。地域と学校が連携して、子どもたちを見守っていくことが大切にされています。

2. 職員校内組織



学校内の安全・安心について、ISS委員会で話し合った内容を職員会議等で、全職員に周知しています。話し合った内容をもとに、「環境整備」「授業研究」「児童会活動」につなげていくようにしています。また、校区の学校との連携を図るために、ISS校区対策委員会をつくり、校区の意見交流に努めています。

3.児童の組織



本校では、8つの部会活動から児童会組織を形成しています。各部会で、学校での安全・安心について考え、考えたことをもとに、各部会の代表者がISS委員会に出席し、自分たちの部会でなにができるかを話し合っています。また、ISS委員会からの提案を受け、学期に1～2回、4年生から6年生の児童全員が集まってISS子ども会議を行います。各部会やISS子ども会議で話し合われたことを学校全体への発信する場所として、ISS児童集会在月に一回設けられています。また、校区の学校との連携を図るために、運営部が中心となって、ISS校区子ども会議を行なっています。

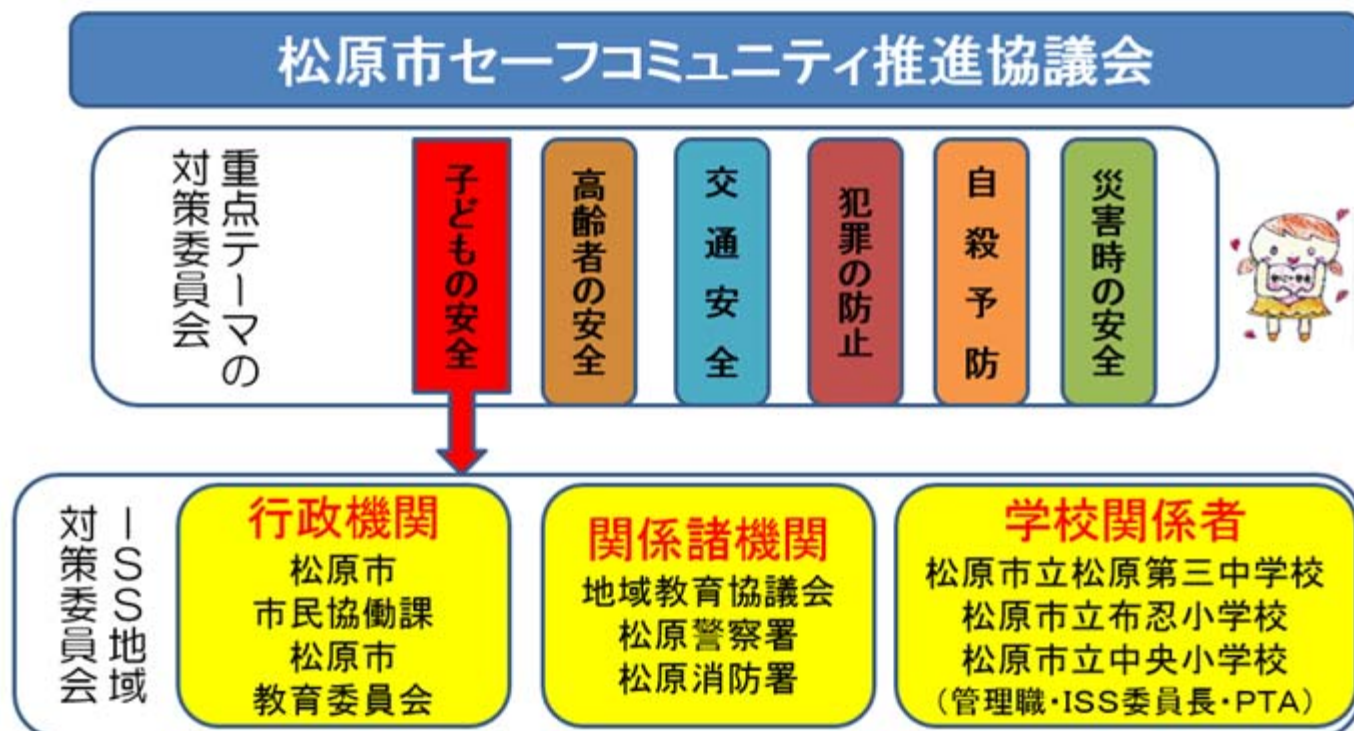


ISS校区子ども会議



ISS委員会

指標2 取り組みの方針はセーフコミュニティに基づき、自治体や教育委員会の方向性と一致している



松原市セーフコミュニティ推進協議会の元で、本校は、行政機関、関係諸機関と連携しながら取り組みを進めています。

<本校のISSの取り組みの方向性>

本校でのISSの取り組みの方向性は、松原市教育振興基本計画と三中校区のめざす子ども像と一致するものです。スローガンを「安心・安全をめざす元気な中央小」とし、合言葉を、【①校内のけがを減らそう②いじめをなくそう③交通安全・防災意識をもとう④モリモリ食べて、体力をつけよう】にしました。

松原市教育振興基本計画

方針：安心・安全で魅力ある学校園づくりの推進
重点目標：開かれた学校づくりと安心・安全な学校づくりの推進

三中校区の
めざす
子ども像

- ①自分や仲間の良さに気づき、高め合える子ども
- ②地域を愛し、人とのつながりを広げていける子ども
- ③人権を大切にする社会を創るため、行動できる子ども

中央小
のISS
スローガン

安心・安全をめざす
元気な中央小

合言葉

- 校内のけがを減らそう
- いじめをなくそう
- 交通安全・防災意識をもとう
- モリモリ食べて、体力をつけよう

指標3 全ての年齢・性別・環境・状況を対象とする長期・継続的なプログラムを実施している


表中の取り組みのうち「黄」は指標3、「青」は指標4、「緑」は指標5を示しています。


対象者 領域	児童	教職員	保護者・地域
校 内 の け が	3-1 ISSキャラクター		
	3-2 危険個所の整備		
	3-3 校舎の耐震対策		
	3-5 朝マラソン ・マラソン大会	3-4 教職員研修の実施	
	3-6 砂場の整地		
		3-7 体育器具の安全点検	
	3-8 体力測定		
	3-9 安全に関する放送		
	3-10 着衣水泳		
	3-11 児童会活動		
	3-12 ISSストリート		
	4-9 校内安全マップ		
	4-11 お助け隊		
	5-2 けがマップ		
5-3 毎日のけが調べ			


対象者 領域	児童	教職員	保護者・地域
校内のけが	5-4 校舎内外の安全点検		
	5-5 安全学習		
		5-6 体育科教職員研修	
	5-8 体育朝会		
	5-7 体幹強化		
心のけが	3-13 人権教育		
	3-14 道徳教育		
	3-15 非行防止教室		
	3-16 あいさつ運動		
	3-17 花いっぱい運動		
	3-18 ありがとう作文への参加		
	3-19 平和学習		
	4-7 障がい理解教育		
	4-8 障がいのある方・保護者からの聞き取り		
	5-1 I S S 児童集会		
	5-9 意見ボックス		
	5-10 遊び場づくり		
	5-11 幸せのスマイルツリー		
	5-12 人間関係プログラムの実施		


対象者 領域	児童	教職員	保護者・地域
防災	4-1 防災アンケート		
	4-2 避難訓練		
	4-3 防災学習		
	4-4 土曜子ども防災訓練		
安全	3-20 新入生防犯ブザー		
	3-21 子ども110番の家		
	3-22 安全アンケート		
	3-23 新1年生の集団下校		
	3-24 校区クリーン活動		
	4-5 地区児童会		
	4-6 登下校指導		
	4-10 子ども安全見守り隊		
	5-13 交通安全教室		
	5-14 校区安全マップづくり		


本校ではISSの取り組みとして、様々な教育や活動が展開されています。上記の表はセーフスクールをめざす長期的かつ継続的なプログラムの全体像です。データ等を客観的に分析し、根拠に基づいて重点課題を設定し、協働の仕組みにより安全課題に取り組んでいます。


3-1	ISSキャラクター		新規	
主な対象	児童、教職員	実施者	児童	
内 容	<p>2015年度、児童会活動の中で、子どものアイデアから誕生した、本校ISSキャラクターの「あいちゃん」です。「あいちゃん」の名前の由来は、「助けあい」「支えあい」「学びあい」といった他者とともに成長してほしいという想いからできました。</p>			


3-2	危険個所の整備		継続	
主な対象	児童、教職員	実施者	児童、教職員	
内 容	<p>教職員が、月に一回、安全点検をし、子どもたちからも危険なところはないか意見を聴きながら、けがを減らすための整備をしています。安全ミラーをつけたり、角があるところや鉄棒にカバーをつけたりしています。</p>			


3-3	校舎の耐震対策		継続	
主な対象	児童、教職員	実施者	松原市	
内 容	<p>2013～2014年に、松原市が地震に備えて、校舎・体育館の耐震補強工事を行いました。地震の被害を最小限にするための処置です。</p>			


3-4	教職員研修の実施		継続	
主な対象	教職員	実施者	消防署、医師、教職員	
内 容	<p>主に一学期の間3～4回にわたって、子どもたちが安心、安全に学校生活を送れるように教職員研修を行います。アレルギー対応や体育科の授業における補助の仕方、救急救命の方法などを学んでいます。</p>			


3-5	朝マラソン・マラソン大会		継続	
主な対象	児童	実施者	教職員	
内 容	子どもたちの体力づくりの一環として毎年期間を決めて取り組んでいます。金曜日の体育朝会時や休憩時間などに学年ごとに時間を設定し、その後各学年で朝マラソン、マラソン大会も実施しています。			


3-6	砂場の整地		継続	
主な対象	児童	実施者	児童（体育部）、 教職員	
内 容	走り幅跳びなど体育で使用する時期などに、児童や教職員が運動場の西側にある砂場の砂を掘り起こして整地しています。普段、踏み固められていますが、整地することで柔らかく足をくじくことがなくなりました。			


3-7	体育器具の安全点検		継続	
主な対象	児童	実施者	教職員	
内 容	体育で使用する跳び箱、マットなどの器具を月に一回点検しています。壊れているものやけがにつながる心配があるものは修理したり、廃棄して新しいものに変えたりしています。			


3-8	体力測定		継続	
主な対象	児童	実施者	教職員	
内 容	毎年1回、4～5月に5年生児童を対象に体力測定を実施しています。瞬発力や柔軟性、持久力などについて調べ、その後の体育の時間で課題を克服するための運動を取り入れています。			


3-9	安全に関する放送		新規	
主な対象	児童	実施者	児童（放送部）	
内 容	児童会放送部の子どもたちが、全校児童に対して、毎日の朝やお昼の放送の中で安全に関する呼びかけをしています。けがを減らすためのその日やその時期にあった内容を考えて、熱中症対策のため帽子をかぶることや廊下の歩き方など具体的な行動を促しています。			


3-10	着衣水泳		継続	
主な対象	児童	実施者	教職員	
内 容	年に一回、川や海に遊びに行く機会が増える夏休みのはじめに、3年生と6年生で実施しています。ペットボトルを使った浮き方やいざという時の助け方など、内容を工夫して行っています。			


3-11	児童会活動		継続	
主な対象	児童	実施者	児童	
内 容	月に一回、5、6年生の児童全員が8つの部会に分かれて活動しています。中央小のみんなにとって過ごしやすい学校にするための改善点や自分たちができることを話し合っています。児童は、部会の時間に限らず日常的に活動を展開しています。			


3-12	ISSストリート		新規	
主な対象	児童、教職員、PTA	実施者	児童、教職員、PTA	
内 容	児童が安心・安全で元気な中央小をめざして行なってきた取り組みを掲示できるように校舎の1階にコーナーが作られました。ISSの取り組みはもちろん学年としての取り組みや児童会活動としての活動などをポスターや写真などにして、毎日掲示しています。			


3-13	人権教育		継続	
主な対象	児童	実施者	教職員	
内 容	豊かな人権感覚を育てるために、「共生」や「仕事」など学年ごとにテーマを決めて毎年取り組みをしています。学期ごとに学習の中でいろいろな方に出会ってお話を聴いたり、学んだことを自分に重ねて考えたりしています。			


3-14	道徳教育		継続	
主な対象	児童	実施者	教職員	
内 容	毎週に1時間ある道徳の授業では、学年ごとに道徳的な力をつける学習を内容項目に沿って学習しています。教材を読んで終わるのではなく、学んだことを自分に返して交流したり、友だちとのかかわり方に発展させたりしています。			


3-15	非行防止教室		継続	
主な対象	児童	実施者	松原警察	
内 容	年に1度、松原警察の方に来ていただき、非行やそれにつながる行動をなくすためのお話をしてもらいます。夏休み前など子どもたちが自由に過ごす時間が長い時に、事件や事故に巻き込まれないように取り組んでいます。			


3-16	あいさつ運動		継続	
主な対象	児童	実施者	児童（運営部）、PTA、教職員	
内 容	学期はじめを中心に、1年間に10日ほど児童会運営部の子どもたちとPTA、教職員が正門付近であいさつ運動を行っています。気持ちいいあいさつをして1日をスタートすることで、友だちとのつながりをつくるきっかけとして大切にしています。			


3-17	花いっぱい運動		継続	
主な対象	児童	実施者	児童（環境部）、 教職員	
内 容	季節ごとのきれいな花に囲まれながら、気持ちが明るく元気になるように中庭や校舎の周りに花を植えています。毎月ある児童会活動のとき、環境部の子どもたちや教職員で取り組んでいます。			


3-18	ありがとう作文への参加		継続	
主な対象	児童	実施者	教職員、地域	
内 容	日ごろお世話になっている人に感謝の気持ちを伝える「ありがとう作文」に全校で取り組んでいます。家族や友だちなどとのつながりについて考える機会になっています。夏休み明けの9月に集めます。代表1名が松原市のスピーチコンテストで発表します。			


3-19	平和学習		継続	
主な対象	児童	実施者	教職員 児童（6年生）	
内 容	11月にある修学旅行で広島に行く前に6年生で取り組んでいます。原爆の被害や戦争の歴史を学ぶとともに、仲間関係など自分たちの身近なところの平和について考え、まとめたものを11月中旬の「平和集会」など全学年に伝える活動に発展させて取り組んでいます。			

3-20	新入生防犯ブザー		継続	
主な対象	児童（1年生）	実施者	松原市、教職員	
内 容	毎年、入学式（4月）のときに新入生全員に配布しています。使い方や自分の身の守り方について各教室で伝えるとともに、不審者対応の避難訓練の際に松原警察の方からお話をしてもらおうなど、いざという時に活用できるようにしています。			

3-21	子ども110番の家		継続	
主な対象	児童	実施者	地域、教職員	
内 容	いざという時に助けを求めていい場所として「子ども110番の家」があることを4月やささまざまな時に各学年で伝えています。地区児童会の際には自分たちの通学路で、どこに110番の家があるか確認するようにしています。			

3-22	安全アンケート		新規	
主な対象	児童	実施者	教職員	
内 容	年に一回、子どもたちの安全に関する意識調査を行っています。放課後や休日の過ごし方、自転車の乗り方などどんなことに気をつけているのか、学校で学んだことが意識できているのか調べ、取り組みにつなげています。			


3-23	新1年生の集団下校		継続	
主な対象	児童	実施者	教職員、PTA	
内 容	入学して間もない時期に、通学路・登下校時の注意などを確認するために行っています。1年生を帰る方向の同じ5グループに分け、教職員やPTAの方々の方が家の近くまで送るようにしています。登下校時に一人にならないように同じ方向に帰る友だちが誰かについても確認できるようにしています。			


3-24	校区クリーン活動		継続	
主な対象	児童	実施者	児童、教職員、PTA、地域	
内 容	年に一回、児童、教職員、PTAが参加して校区を回り、公園や通学路のごみを拾う取り組みをしています。拾いながら、「タバコがいっぱい!」「捨てたらあかんなあ」という感想をもったり、「きれいになって気持ちいい!」ということを体感したりできています。			


指標4 ハイリスクグループ・環境を対象としたプログラム


【表5】


ハイリスク	根 拠	取り組み
自然災害に対する対応 (台風や地震など)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本は災害が多い。 ・松原市は、上町断層帯、生駒断層帯、中央構造線断層帯に囲まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災アンケート ・避難訓練 ・防災学習 ・土曜子ども防災訓練(地域・保護者の方々と避難所体験・スタッフ体験) ・集団下校訓練
校区の環境に対する対応 (特に交通量)	<ul style="list-style-type: none"> ・交通量の多い道路が多い。 ・校区の細い道が抜け道になる。 ・歩道が整備されてない道がある。 ・自転車の通行が多い。(交通規則を守らない) 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全アンケート(参照:取り組み 3-22) ・校区安全マップ(参照:取り組み 5-14) ・登下校指導 ・交通安全教室(参照:取り組み 5-13) ・子ども安全見守り隊
支援学級(すぎのこ)に対する対応	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいに対する無理解 ・障がいに対する偏見・差別 ・けがをすることが多い ・支援学級には自分の気持ちを伝えるのが苦手な児童が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校指導 ・障がい理解教育 ・障がいのある方・保護者から聞き取り ・校内安全マップ
低学年児童に対する対応	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生のけがが多い(図1-3) ・様々なルールを理解できずけがをすることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内安全マップ ・集団下校・地区児童会 ・子ども安全見守り隊 ・お助け隊(6年生による給食の手伝い)

4-1 4-2	防災アンケート・避難訓練		継続
主な対象	児童、教職員	実施者	児童、教職員
内 容	年に一回、いざという時、自分の判断でどのくらい行動できるのか、防災に対する意識をアンケートで確かめています。その結果をもとに、訓練時や日常生活での意識が高まるように指導をしています。		
			

4-3	防災学習		継続
主な対象	児童	実施者	教職員
内 容	阪神淡路大震災が起きた1月に、各学年で防災学習に取り組んでいます。災害の怖さだけでなく、地域のつながりや支え合いの大切さ、そして改めて自分で自分の身を守る方法などについて学習します。		
			

4-4	土曜子ども防災訓練		継続	
主な対象	児童、教職員、PTA	実施者	児童、教職員、PTA	
内 容	自然災害に対する「土曜子ども防災訓練」の様子です。年に一回行われる取り組みの中では、児童ISS委員会のメンバーが中心となり、防災資機材取り扱いや、避難所体験、防災競技に取り組みました。			

4-5 4-6	地区児童会・登下校指導		継続	
主な対象	児童、教職員	実施者	児童、教職員	
内 容	災害など緊急時に安全に下校するために年に3回集団下校訓練を行っています。高学年児童が低学年児童を引率するなど児童が主体的に行動できるように指導しています。地区児童会では通学路の危険箇所を確かめたり、その他、登下校時に気をつけることを確認したりしています。			

4-7	障がい理解教育		継続	
主な対象	児童	実施者	教職員	
内 容	毎年、各学年で、発達段階に応じて行います。低学年ではすぎのこ学級児童との交流、高学年は支援学級担任による出張授業を行っています。発達理解・障がい理解・バリアフリーとユニバーサルデザインについての学習です。日常的に、支援学級の児童のがんばりや、困っていることなどを学級や学年に伝えることで、共に成長できる友だち関係づくりを大切にしています。			

4-8	障がいのある方 ・保護者からの聞き取り		継続
主な対象	児童、教職員	実施者	教職員、地域
内 容	総合的な学習の取り組みで保護者や地域の施設で働いている方、車いすバスケットや車いすダンスに取り組んでいる方など、障がいと向き合い、生き生きと活動している方との出会いを設定している。その方の生き方から努力することの大切さを感じたり、周りの環境や仲間の関わりを考えたりすることができています。		



4-9	校内安全マップ		継続
主な対象	児童、教職員、PTA	実施者	児童、教職員、PTA
内 容	支援学級（すぎのご学級）児童、低学年児童に対しての、「校内安全マップ」です。学校での安全を図るために、ISS委員会の児童をはじめ、子どもたちと教職員、PTAが校内を調査し、作成したものです。		



4-10	子ども安全見守り隊		継続
主な対象	児童	実施者	地域
内 容	子どもたちの登下校の安全を見守るために毎日11か所に立ってくださっています。気がついたことなどを懇談会で交流しながら、より安全に登下校ができるように工夫してくれています。		



4-11	お助け隊		継続
主な対象	児童（1年生）	実施者	児童（6年生）
内 容	1年生が初めて給食を食べるときや掃除をするときに6年生がお手伝いに行っています。用意の仕方や掃除道具の使い方など見本を見せながら教えてあげています。		

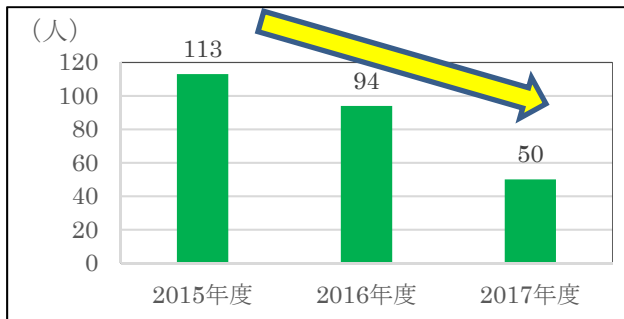


課題1 「1年生のけがが多い。特に女子が多い。」への取り組みの成果

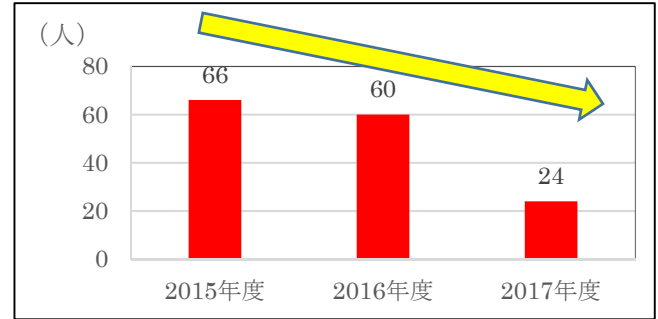
① 1学期のけがの人数 (2015年度～2017年度)

(保健室来室データより)

<1年生>



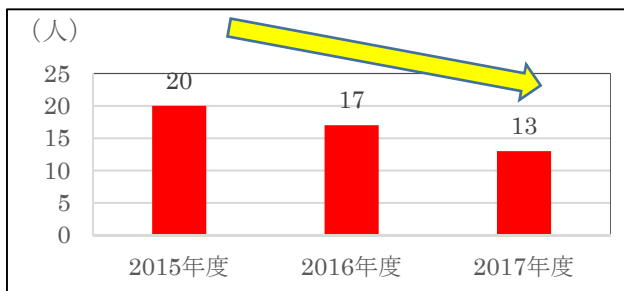
<1年生女子>



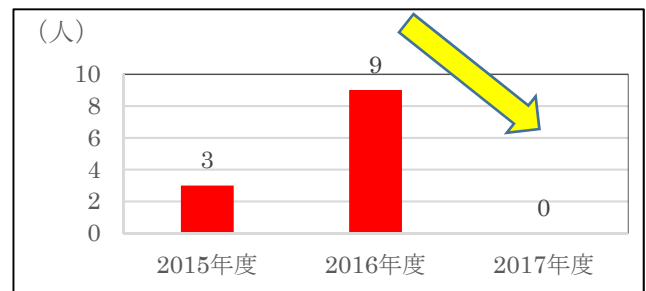
② 1学期のけがの時間別人数 (2015年度～2017年度)

(保健室来室データより)

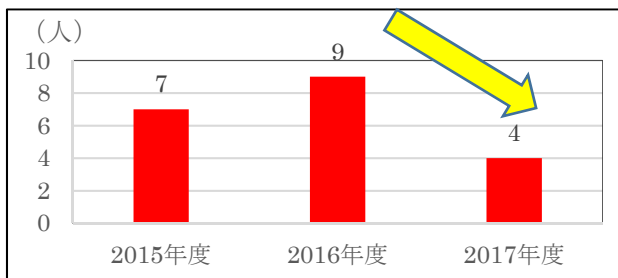
<休み時間・1年生女子>



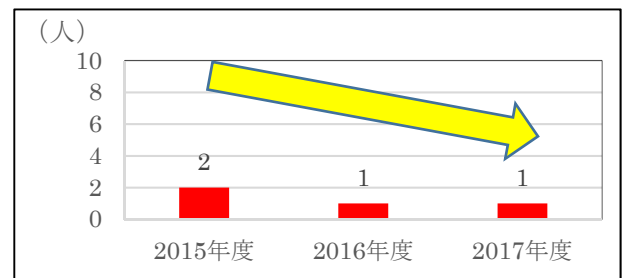
<給食の時間・1年生女子>



<そうじ中・1年生女子>



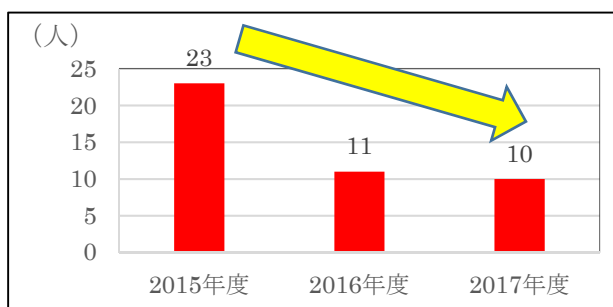
<登下校・1年生女子>



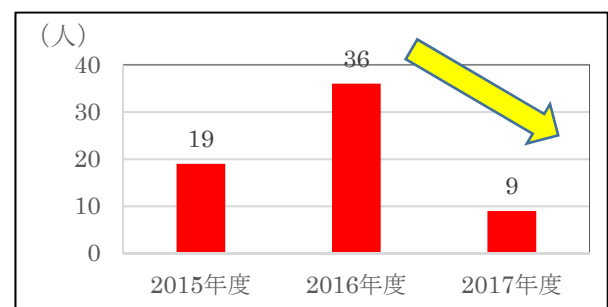
③ 1学期のけがの場所別人数 (2015年度～2017年度)

(保健室来室データより)

<運動場・1年生女子>



<教室・1年生女子>



指標5 入手及び活用可能な根拠に基づいたプログラム

【表6】

	解決すべき点 (重点課題)	方向性	対策
(体的側面) 身のけが	課題1 1年生のけがが多い。特に女子が多い。	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間と授業中のけがを未然に防ぐことや子ども達の意識を高める取り組みの充実を図る ・指導体制の改善充実を進め、安全に対する教職員の意識を高める 	(5-1) I S S 児童集会 (5-2)けがマップの作成 (5-3)毎日のけが調べ (5-4)校舎内外の安全点検 (5-5)安全学習 (5-6)体育科教職員研修 (5-7)体育などにおける体幹強化 (5-8)体育朝会
	課題2 運動場・体育館・教室のけがが多い。運動場では転倒、体育館では技能未熟(過重)、教室では、衝突が多い。		
	課題3 休み時間・体育の時間のけがが多い。休み時間は転倒・衝突、体育の時間は転倒・衝突・技能未熟(過重)が多い。		
	課題4 通院を要するけがは、高学年(5・6年)が多い。		
(心の側面) 心のけが	課題5 被害的側面を感じる児童が低学年(1・2年)に多い。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの気持ちを丁寧につかみ、いじめを未然に防ぐ ・対話をはじめとした関わり合いの場面を多く設定し、よりよい人間関係づくりへつなげる 	(5-1) I S S 児童集会 (5-9)意見ボックス (5-10)遊び場づくり (5-11)幸せのスマイルツリー (5-12)人間関係プログラムの実施
	課題6 加害的側面は低学年(1・2年)と5年に多い。		
	課題7 高学年になるにつれて、学校を楽しく感じる子どもが減ってくる。		
防災	課題8 家庭や地域を巻き込んだ防災意識が弱い。	交通安全意識・行動の向上	(4-3)防災教育 (4-4)土曜子ども防災訓練
安全 交通	課題9 交通事故やヒヤリハットの経験のある児童が多い。	防災意識・行動の向上	(5-13)交通安全教室 (5-5)安全学習 (5-14)校区安全マップづくり

本校の9つの課題に対する方向性と対策をまとめました。

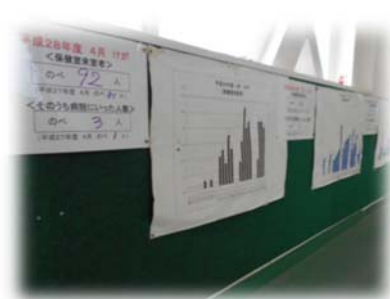
5-1	ISS児童集会		継続
主な対象	児童	実施者	児童
内容	<p>月に1回程度、全校児童が集まってISSのことを、劇やクイズなど様々な方法で、児童会の運営部や各部会から報告や提案があります。</p> <p>右の上の写真はISS児童集会での劇の様子です。児童会運営部の子どもたちが、教室で起こりうるけが(課題2の教室のけがと課題3の休み時間のけがに対して)をテーマに、劇を演じて、注意をよびかけました。</p> <p>右の下の写真は、ISS校区子ども会議で各校の実態・取り組みの交流と話し合いを行い、ISS児童集会ではこころのけがを減らしていきたい(課題5に対して)というISS委員会の考えのもと、「信じ合う仲間づくり協働宣言」を児童全体の前で発表しました。</p>		



5-2	けがマップ		継続
主な対象	児童	実施者	児童（保健部）
内 容	<p>校内けがマップは、校内でけがをした児童が、けがをした場所、けがの種類をマップに貼れるように、児童会保健部の児童が作成しました。けがをしたその時その時に、どうしたらけがをしないようになるのかカードに書き、けがをした場所にシールを貼っています。場所が一目で分かるようになっており、けがの多い場所にいる時や通る時は注意して行動することにつながっています。</p>		





5-3	毎日のけが調べ		継続
主な対象	児童	実施者	児童（保健部）
内 容	<p>保健室の前に、毎日のけがの様子を掲示しています。ここでは、昨日のけがの発生件数を書き込み、それを基にグラフ化し、発生件数が見えるようになっています。データがたくさん集まってきたので、今後はけがの発生件数が多い日の後や、過去に多かった月などに、けが防止の啓発を行っていきます。</p>		





5-4	校舎内外の安全点検		継続
主な対象	児童、教職員	実施者	教職員
内 容	<p>安全点検を毎月一回、実施しています。遊具やフェンスなどけがにつながる箇所があれば修繕し、学校生活でのけがを未然に防ぐことを大切にしています。</p>		



5-5	安全学習		継続	
主な対象	児童	実施者	教職員（養護教諭）	
内 容	学期に1度実施している二測定の際に、養護教諭からパワーポイントを使って、健康診断や生活習慣、体の仕組みなどについて、各学年の成長段階に応じた保健指導を行っています。			

5-6 5-8	体育科教職員研修・体育朝会		継続	
主な対象	児童、教職員	実施者	教職員	
内 容	年に三回ほど体育科の時間中のけがを防ぐために、学習環境の整え方、指示を出すときの教師の立ち位置、運動をする際の補助のやり方など実技研修を行って学びを共有しています。 また、1学期にはラジオ体操、2学期には縄跳び、3学期には、マラソンを課題に、低学年・高学年に分かれて体育朝会を実施し、けがをしない体力をつける運動に取り組んでいます。			

5-7	体幹強化		新規	
主な対象	児童	実施者	教職員	
内 容	毎時間の体育の時間などに、けがをしにくい体づくりをめざして、軍手をはめて雑巾がけをしています。ゲーム性を取り入れて楽しみながらの体幹強化になっています。			

5-9	意見ボックス		新規	
主な対象	児童	実施者	児童	
内 容	職員室前の廊下に常備してあります。児童会運営部の児童が提案したテーマに沿って、より良い学校にするための意見や考えを全校から集めています。もらった意見について運営部を中心に検討し、学校側に要望書を出したり、企画を計画して実施したりしています。			

5-10	遊び場づくり	新規	
主な対象	児童	実施者	児童
内 容	学期に数回、異学年交流として遊びを通してつながる機会をつくっています。高学年児童が低学年児童にやさしくかわる姿を見たり、実際に体験したりすることで学校全体に安心な関係を築く努力をしています。		



5-11	幸せのスマイルツリー	継続	
主な対象	児童	実施者	児童
内 容	学年の中はもちろん、違う学年でもいいので、「やさしいこと」や「すごいな」、「さすがだな」と思うことをしたり、言ったりしていたことを、葉っぱ状の紙に書いて、掲示板に貼っていき、最終的には大きな木にしていこうというものです。		



上記のものは、心のけがに対応した三つの取り組みです。

「意見ボックス」「遊び場づくり」「幸せのスマイルツリー」のきっかけは、松原市生徒会児童会交流会で他校の取り組みを I S S 委員会の児童が聞き、考えたものです。他校の取り組みに刺激を受けた I S S 委員会の児童が、本校でも取り組みたいと思い、アレンジを加えながら本校の形となっています。これにより、いじめや悪口をなくそうとする動きが全体に広がってきています。



5-12	人間関係プログラムの実施	継続	
主な対象	児童	実施者	児童
内 容	人間関係学科（HRS）の取り組みを積極的に行っています。様々な活動を通して、友だちと協力する楽しさを感じたり、気持ちの伝え方や聴き方を考えたり、人間関係をつくっていくうえで大切な価値観を育てています。		



5-13	交通安全教室		継続
主な対象	児童	実施者	教職員
内 容	年に一回、松原警察の方に来ていただき、自転車の乗り方や信号の約束など事故にあわないためのお話をしていただき、学習をしています。自転車に乗っていて「ひやっ」とした体験がある児童も少なくなく、日常生活につながる貴重な学びとなっています。		



5-14	校区安全マップづくり		新規
主な対象	児童	実施者	教職員、児童
内 容	登下校のけがや自転車でのけがを減らすために、総合的な学習の時間に、3年生が校区を回り、校区安全マップを制作しました。		



課題3に対して ～ISS子ども会議の流れの例～

ISS中央子ども会議 2017年9月15日
～9月（体育大会及び練習）のけがを減少させるために～

ISS委員会

(児童会運営部全員と各部会の部長副部長)

9月1日(金)より、2学期の開始。週明けの9月4日(月)にISS委員会が開かれ、「9月のけがを減らすために、児童会の各部会で取り組みを考えよう。」という提案が出された。

児童朝会

(運営部から児童全員に)

9月5日(火)の児童朝会(1週間に1回開かれる)に運営部より9月のけがを減らすために、1年生から3年生は、意見を「意見ボックス」に、4年生から6年生は、ISS中央子ども会議で意見を発表してほしいと発言があった。

意見ボックス

ISS中央子ども会議

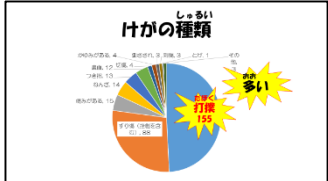
(4年生から6年生の全児童)

運営部の児童が司会や運営を行う。今回は、保健部から、1学期のけがや昨年9月のけがのことについて説明があった。たくさんの児童から、9月のけがを減らすための意見が出された。

保健部からのプレゼンテーション

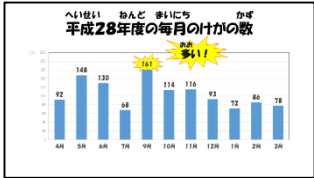
保健室に来た
けがの数について

1学期のけがの数	平成29年度	平成28年度
4月	69人	92人
5月	99人	148人
6月	87人	130人
7月	60人	68人



けがを減らすためには
どうしたらいいですか?

- 理由1
体育大会の練習が始まるから。
- 理由2
すべての月で人や物にぶつかったなどの打撲が多い。



ISS児童集会

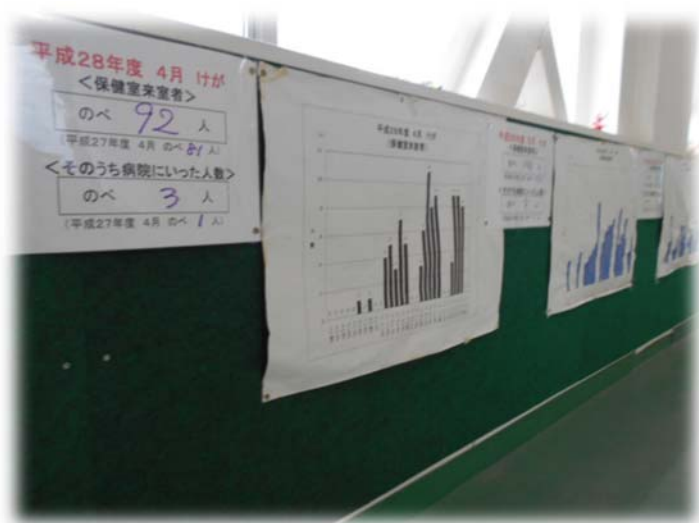
ISS委員会から全校児童に

指標6 外傷の頻度や原因を記録するしくみ

中央小学校では、体のけが、心のけがの2つに分類してデータの記録を表のように行っています。

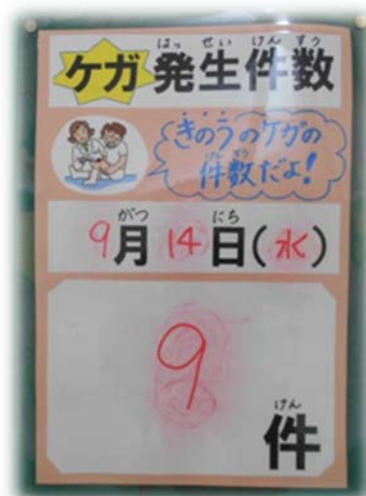
【表7】

分類	けがの種類	記録方法	頻度
体のけが	軽微なものを 含むけが	①けがした場所を校内地図に記録 毎日のけがの件数の確認と表示 ②保健室利用カードを使って、けがの情報を 収集し、統計処理を実施	けがをして保健室に行ったとき毎日のけがの件数を提示し、グラフを作成 毎日データ入力し、月ごとに分析する。
	通院を要する けが	③学校管理下(登下校時を含む)におけるけがについては災害医療費請求をするために、松原市教育委員会に記録を提出し、日本スポーツ振興センターへ申請	月ごとに集約し、松原市の教育委員会にデータを提出
心のけが	いじめにつながる訴えや事案の件数	④全児童対象に、学校生活アンケート及び全児童・保護者の学校生活アンケート	・每学期ごとの学校生活アンケート ・年間1回の学校自己診断 (児童・保護者)



- ① 保健室の前に、毎日のけがの様子を掲示しています。ここでは、昨日のけがの発生件数を書き込み、それを基にグラフ化し、発生件数が一目で分かるようになっています。データがたくさん集まってきたので、今後はけがの発生件数が多い日の後や、過去に多かった月などに、けが防止の啓発を行っていきます。

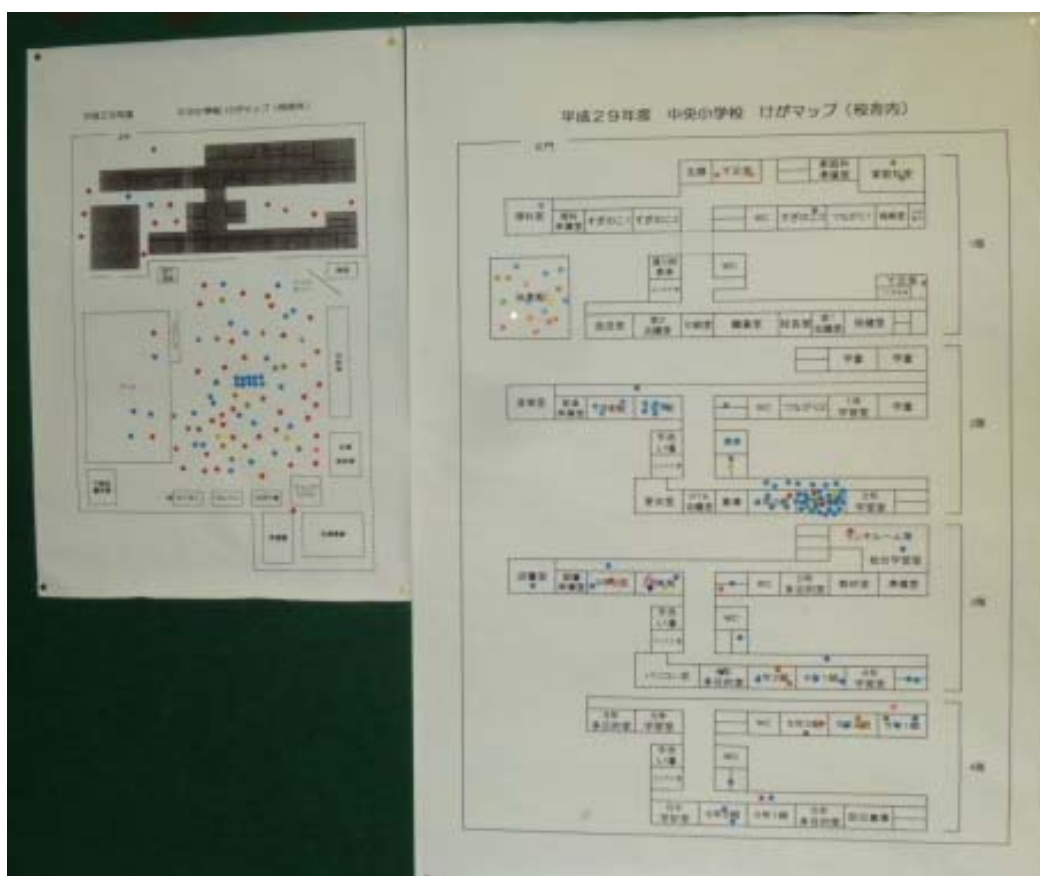
- ② 毎月のけがを、学年・性別・来室理由・時間帯・けが名・部位・場所・原因別にグラフ化して職員室前に掲示しています。先ほどの毎日のけがのデータと合わせて、児童会保健部で分析し、ISS児童集会などで全校児童にけが防止の啓発を行っています。



校内けがマップは、校内でけがをした児童が、けがをした場所、けがの種類をマップに貼れるように、児童会保健部の児童が作成しました。その時、どうしたらけがをしないようになるのかカードに書くようにしています。場所が一目で分かるようになっており、けがの多い場所にいる時や通る時は注意して行動することにつながっています。



2016年度
けがマップ



2017年度
けがマップ

指標7 プログラム・プロセス・効果を測定・評価

1. 評価指標と効果の検証

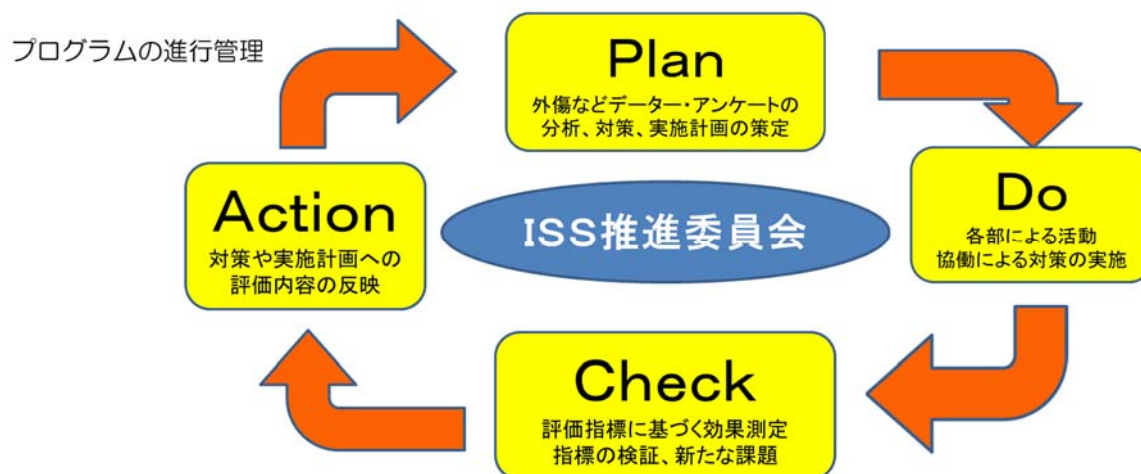
校内のけが、交通安全、防災の対策を検証するための効果を測定、評価する短・中期的成果の指標と、長期的成果の指標をまとめました。

【表8】

	対策	短・中期的成果の指標	長期的成果の指標
校 内 の け が	目標：危機予測・回避能力の育成 (5-1)ISS児童集会 (5-2)けがマップの作成 (5-3)毎日のけが調べ (5-4)校舎内外の安全点検 (5-5)安全学習 (5-6)体育科教職員研修	指標：けがの発生要因・改善策の理解 ○児童アンケート ・対象：全児童 ・回数：年間1～2回	指標：校内でのけがの発生数 ・保健室及びスポーツ振興センター申請のデータ
	目標：体幹の強化 (5-7)体育などにおける体幹強化 (5-8)体育朝会	指標：体力の向上 ○体カテストの結果 ・対象：全児童 ・回数：年間1回	
	目標：心の育成 (5-1)ISS児童集会 (5-9)意見ボックス (5-10)遊び場づくり (5-11)幸せのスマイルツリー (5-12)人間関係プログラムの実施	指標：良好な人間関係の構築 ○学校生活アンケート及び学校自己診断アンケート ・対象：全児童 ・回数：年間3回	
防 災	目標：防災意識の向上 (4-3)防災教育 (4-4)土曜子ども防災訓練	指標：防災意識の向上 ○防災アンケート ・対象：全児童 ・回数：年間1～2回	
交 通 安 全	目標：安全意識の向上 (5-13)交通安全教室 (5-5)安全学習 (5-14)校区安全マップづくり	指標：交通ルールの定着・安全意識の向上 ○交通安全アンケート ・対象：全児童 ・回数：年間1～2回	指標：自転車による事故の発生率

2. プログラムの進行管理

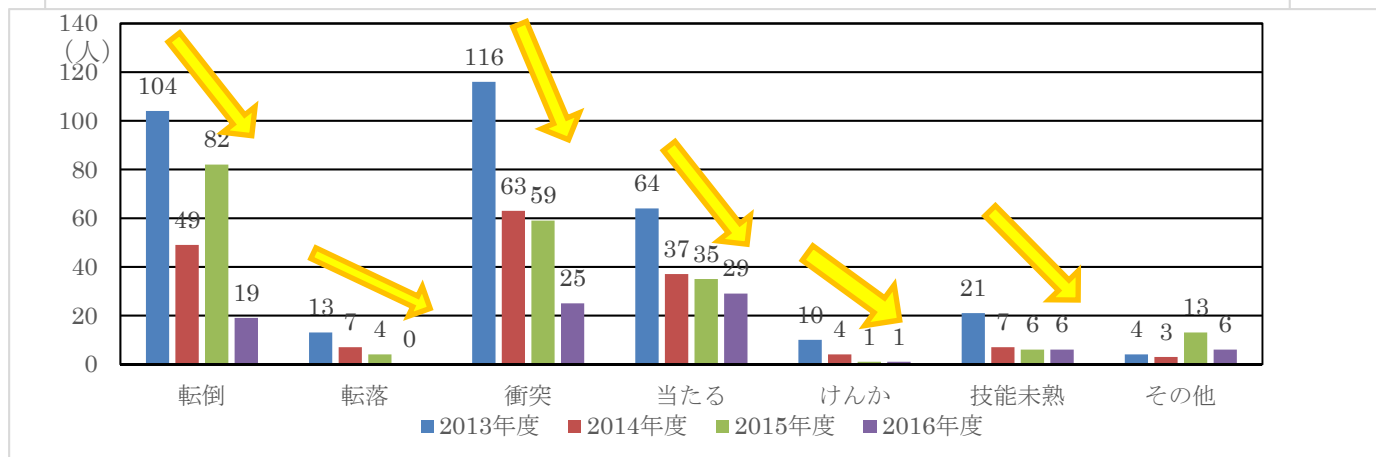
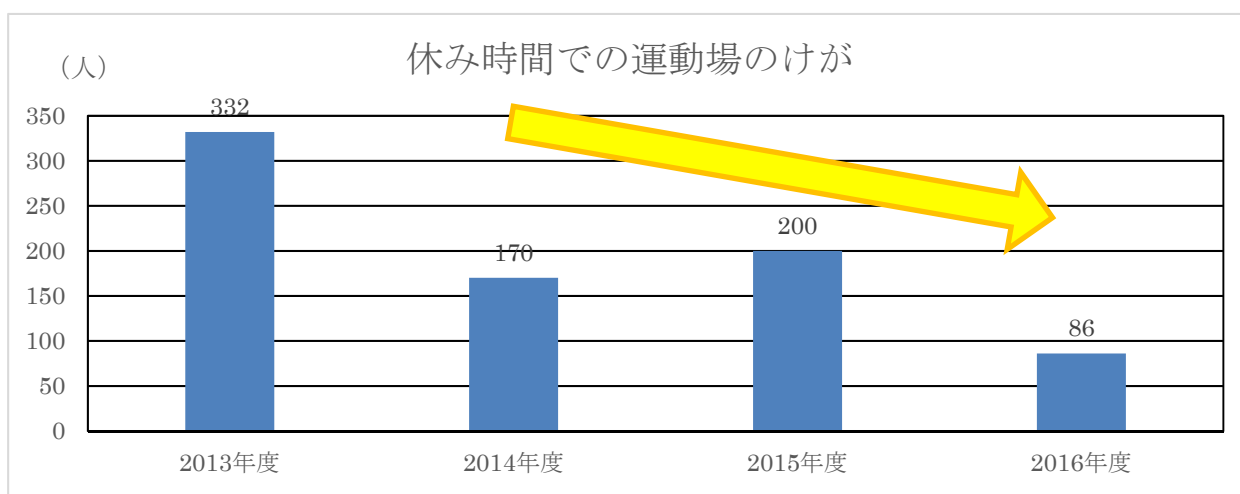
プログラムは、ISS 推進委員会を中心に、Plan⇒Do⇒Check⇒Action のP D C Aサイクルで進行管理しています。



3. 取り組みによる児童の変容

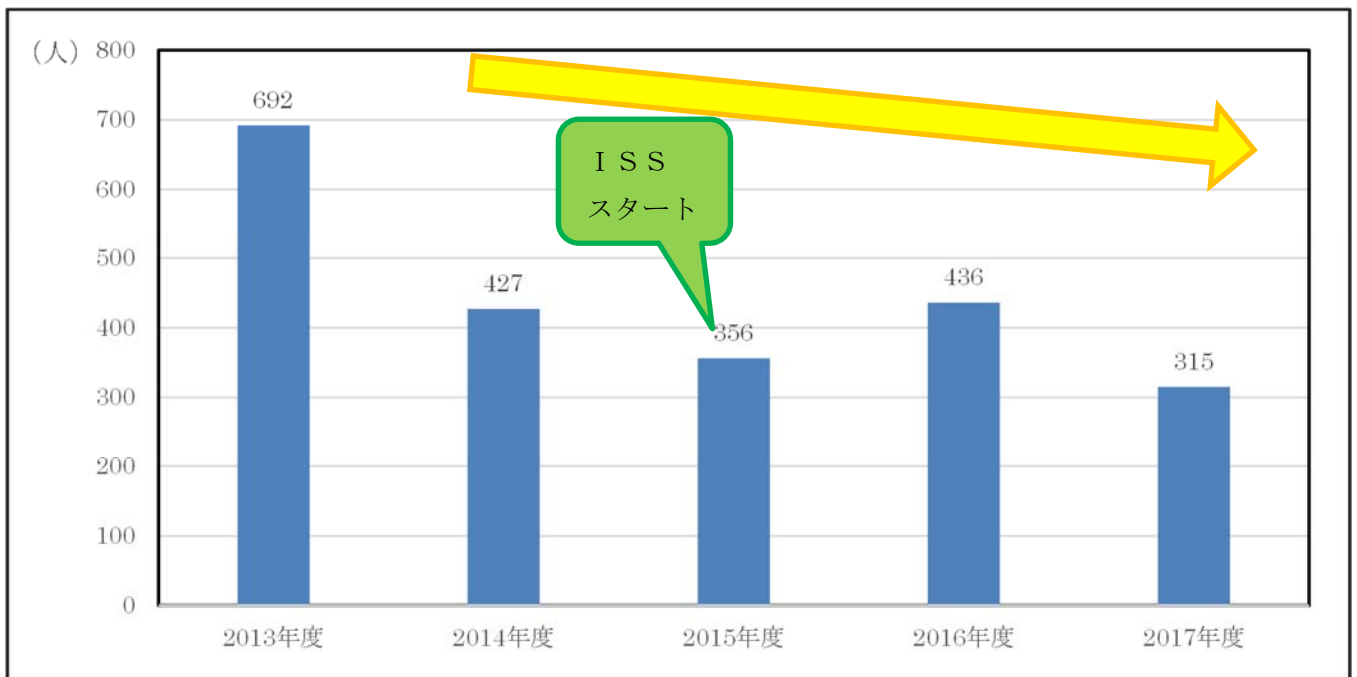
(1) 体のけがの防止

休み時間の運動場のけがが減少



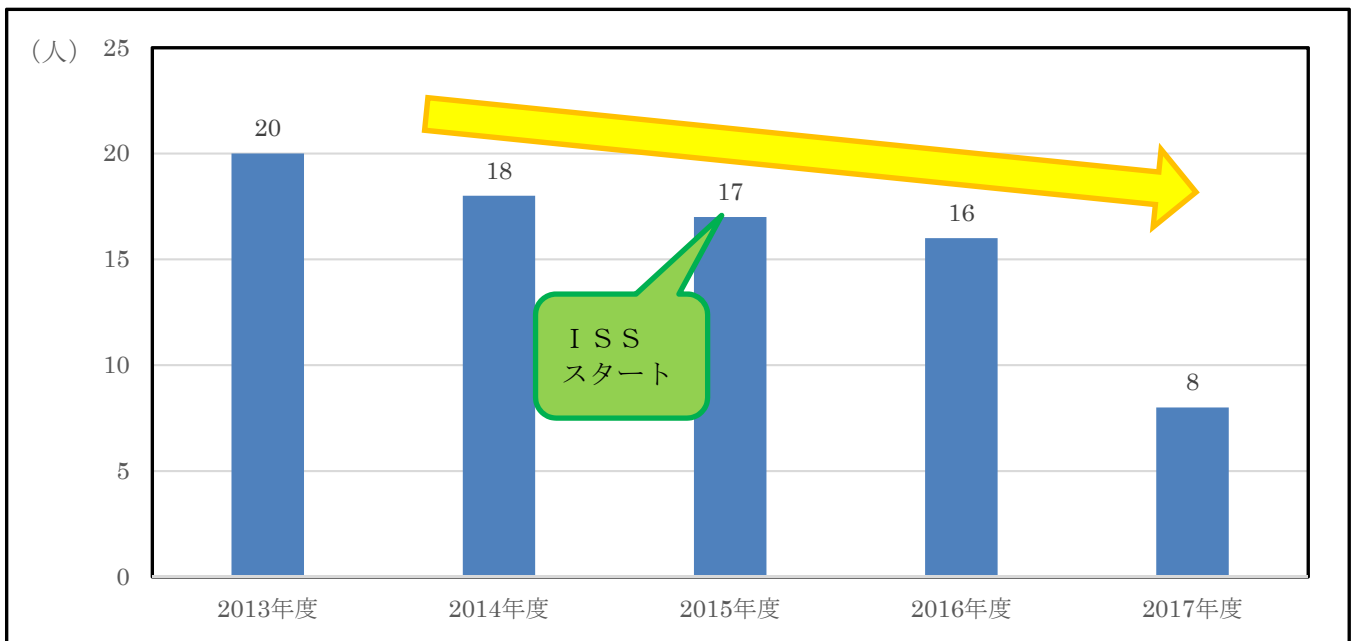
1 学期のけがが大幅に減少（保健室の来室人数・通院のけがの人数）

< 1 学期の軽微なものを含むけがの人数 >（2013 年度から 2017 年度）



（保健室来室データより）

< 1 学期の病院を要するけがの人数 >（2013 年度から 2017 年度）



（日本スポーツ振興センター申請数より）

(2) 心のけがの防止

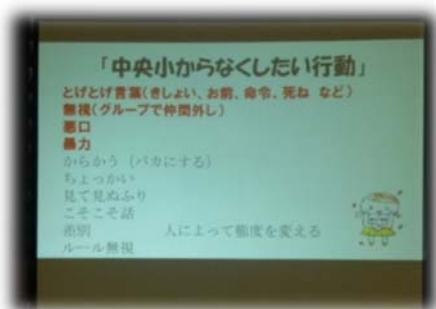
ISS中央子ども会議

2017年6月30日

～安心安全な学校づくり～

○6月に入ってから意見ボックスで「中央小学校にあふれさせたい行動」や反対に「中央小学校からなくしたい行動」というテーマで意見を募りました。同じ時期に全児童を対象に「学校生活アンケート」をとり、主に友だちとの関わりについて子ども達を感じていることを書いてもらいました。

6/30(金)には、集まった意見やアンケートの結果をもとにISS中央子ども会議を行いました。友だちを助けるための行動や声かけを増やし、傷つける言葉や暴力などをなくしたいという意見が活発に交流されました。日常生活の中で言葉を大切にすることや優しい行動を意識することが増えました。

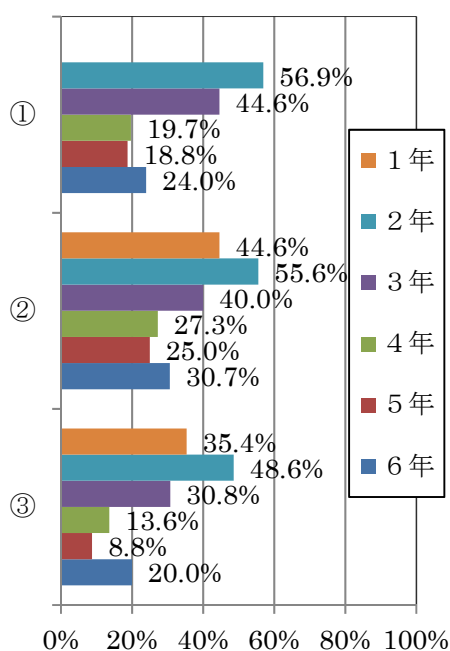
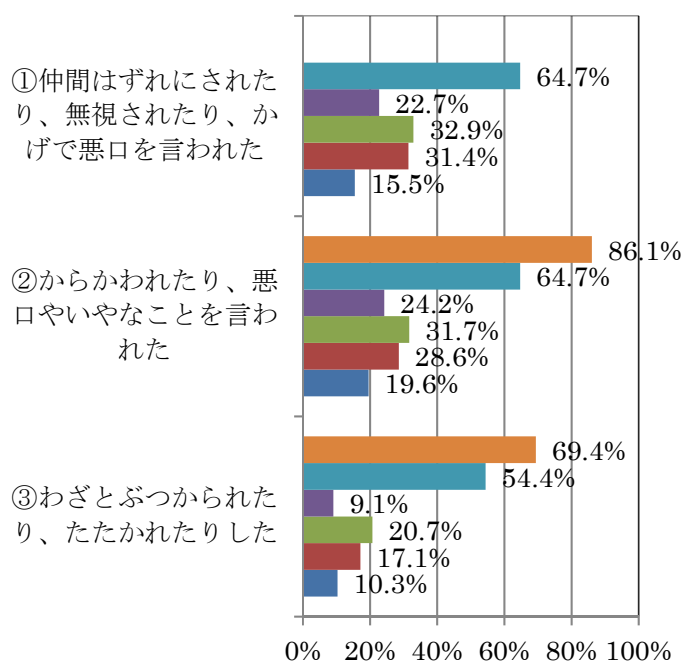


学校生活アンケート 2017年6月初旬

<被害的側面>

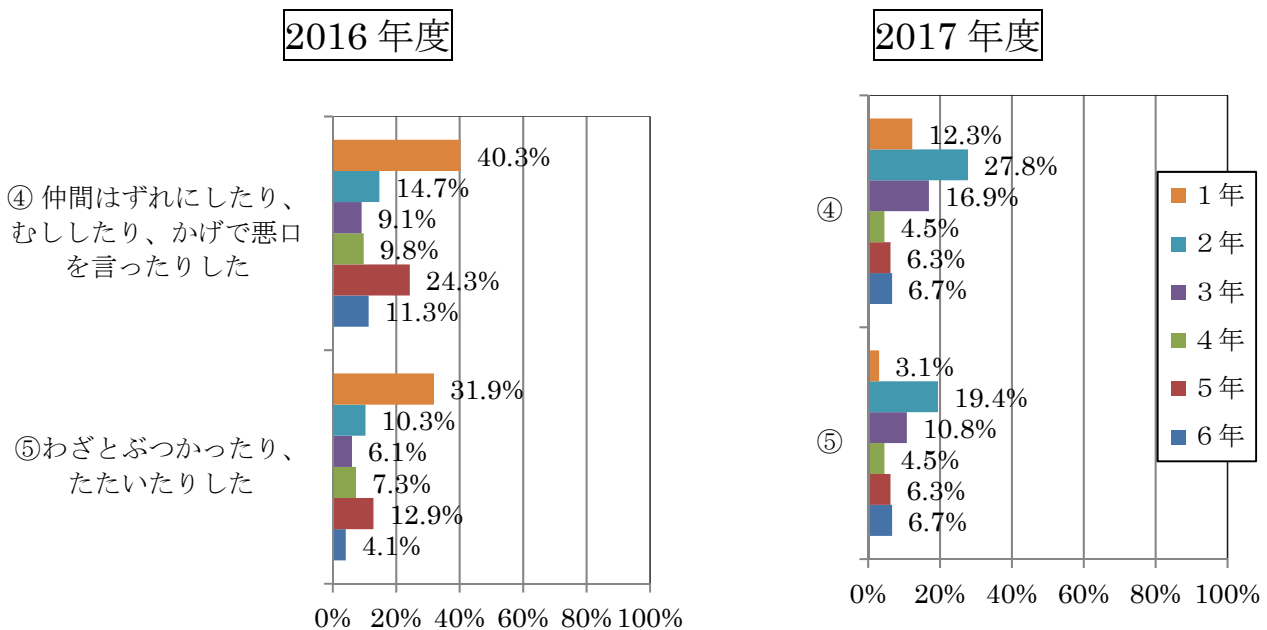
2016年度

2017年度



友だちとの関わりで『被害を受けた』と感じている児童の割合を昨年度のアンケート結果と比べてみると、「無視をされた、かげぐちを言われた」では5学年中3学年が減少、「からかい、悪口」では6学年中4学年が減少、「暴力」では6学年中4学年が減少という改善が見られました。

<加害的側面>

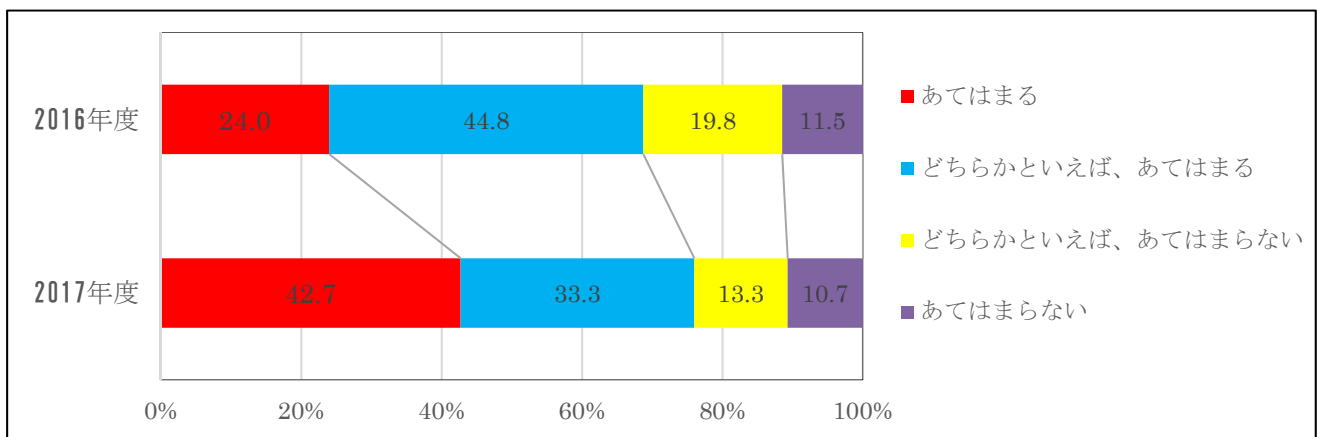


また、『加害』意識がある児童の割合では、「無視をした、かげぐちを言った」では5学年中4学年が減少、「暴力」では5学年中3学年が減少という改善が見られました。

2017年度全国学力学習状況調査より
～学校に行くのは楽しいと思いますか～

また、2017年度の全国学力学習状況調査の質問紙の中で、「学校に行くのは楽しいと思いますか」という問いかけに対し、昨年と比較した場合8%増の76%の児童が肯定的な回答をしていました。一方で20%を超える児童が否定的な回答をしていることは看過できず、引き続き一人ひとりの児童にいていねいに寄り添い、取り組みを進めていく必要があると考えています。

※全国学力学習状況調査 質問紙より 「学校に行くのは楽しいと思いますか」のグラフ



意見ボックス・幸せのスマイルツリー・遊び場づくり

学校生活アンケートで、学校が楽しくないと答えた人がいることを受け、ISS子ども委員会で話し合い、先に紹介した3つの取り組み（意見ボックス・幸せのスマイルツリー・遊び場づくり）をしているのがこれにあたります。まだ実施途中ですが、現在幸せのスマイルツリーでは、100枚以上の葉っぱが集まっています。

<意見ボックス>



仲間関係に関する思いや悩みを言い合える場所づくり

<幸せのスマイルツリー>



友だちの優しさや
がんばりを知る

<遊び場づくり>



他学年と遊べる
日をつくる

三中校区「ISS校区子ども会議」

2017年 6月30日(金)、8月25日(金)

これまでも取り組んできた三中校区の児童会・生徒会の交流会を「ISS 校区子ども会議」と位置づけ、校区として連携して「安心・安全な学校づくり」を進めようと取り組んでいます。児童・生徒が主体的に計画・活動し、「こころのけが」と「体のけが」を減らす取組を行っています。今年度は6月30日、8月25日に行いました。6月には各学校での取組を交流し、8月には3校が連携してどんな活動ができるかを話し合いました。2学期には今回の意見をもとに具体的に取組を計画し、実施していく予定です。



(3) 防災

土曜子ども防災訓練 6月17日(土)

松原市危機管理課・土曜子ども体験活動推進委員会・中央小学校PTAの方々の協力の下に「なぞときゲームぼうさい」に取り組みました。児童たちはゲームに参加し、楽しみながら防災についての知識を学び、訓練を実施することができました。行政・地域・PTAが一体となり、連携して中央小学校児童の安全確保・防災のために取り組んでいます。



〈毛布を担架に〉



〈煙からの避難訓練〉



〈シェイクアウト訓練〉

(4) 交通安全

登下校の交通事故 0件 ～ 子ども安全見守り隊 ～

2017年度も、中央小学校の児童の登下校の安全を守るために、「中央小校区子ども安全見守り隊」の皆さんが校区の11か所に立ってくださっています。2001年より、7年間続いている取り組みです。高齢者など地域の人々がボランティアとして雨の日も、暑い日も、寒い日も一日も欠かさず、通学路の危険な個所に立ってくださっています。

その結果として、登下校での交通事故は、0件を更新しています。



〈懇談会〉



〈見守り〉



〈感謝式〉

指標8 国内・国際的ネットワークへの参加

2015年から各地のISS 事前審査や現地審査を視察に行っています。また、東京都にある池袋第一小学校と池袋本町小学校、池袋中学校の先生方が本校に来校されて交流することもできました。

【表9】

国内ネットワークへの参加状況		
2015年	6月11日	ISS 事前審査視察（豊島区立朋友小学校・豊島区立富富士見台小学校）
	7月1日	ISS 現地審査視察（亀岡市立曾我部小学校・亀岡市立本梅保育所）
	10月6・7日	ISS 現地審査視察（厚木市立睦合東中学校） 学校視察（豊島区立朋友小学校）
	11月16・17日	ISS 現地審査視察（秩父市立第二中学校・秩父市立南小学校 秩父市立花の木小学校）
	2月2日	ISS サミット in 豊島に参加
2016年	6月10日	ISS 事前審査視察（豊島区立池袋本町小学校・豊島区立仰高小学校）
	7月29日	池袋第一小学校 池袋本町小学校池袋中学校 中央小に来校
	11月17日	ISS 現地審査視察（豊島区池袋本町小学校）
	11月18日	ISS 認証式視察（厚木市立清水小学校）

取り組み着手の宣言式



松原三中校区
ヒューマンタウンフェスティバル



松原市SC報告会



松原市子ども議会

松原市の様々な場所で、ISSの取り組みの報告を行っている

取り組み着手の宣言式以降、松原第三中学校区のヒューマンタウンフェスティバルや松原市セーフコミュニティ報告会、松原市子ども議会など、松原市のあらゆる場所で、取り組みの報告を行っています。

第5章 今後の課題及び目標

8つの指標に基づく取り組みを行い、成果、個々の対策の結果をまとめ、次のとおり課題を抽出し、今後の目標を設定しました。

1.児童の組織の整備

課題	<ul style="list-style-type: none">・運営部をはじめ、各部会の取り組みは活発、且つ主体的なものになってきているが、ISS委員会が定期的実施できていない。・年度途中や年度末に児童部会執行部や各部会のメンバーが大きく入れかわることがあり、継続されにくい取り組みがある。
目標	<ul style="list-style-type: none">・ISS委員会を行事予定に入れ、計画的に行う。・取り組んでいることやその意義をISSストリートに掲示したり、各教室などに掲示したりするとともにISS児童集会などで伝えることで意識を「見える化」していく。

2.取り組みの方針、方向性の一致

課題	<ul style="list-style-type: none">・保護者や地域を巻き込んだ取り組みが少なく、目標や意義が一致しにくいことがある。
目標	<ul style="list-style-type: none">・土曜子ども防災訓練のように地域や保護者が参加する取り組みを企画したり、取り組んでいることを周知するために学校新聞で紹介したりする。

3.けがの予防

課題	<ul style="list-style-type: none">・打撲など大きなけがにつながるものの発生件数が多い。特に低学年児童に多い。
目標	<ul style="list-style-type: none">・大きなけがをすることがないように、ふざけや危険な行動をなくす指導を継続する。また、けがの発生件数、原因等、一人ひとりがけがを防ごうという意識を持つことができるように、保健部を中心に啓発していく。・低学年児童にとって理解しやすいように、「校内安全マップ」や「校内けがマップ」等、目で見てわかるものを作成し、掲示する。

4.心のけがの予防

課題	・学校生活アンケートの中で「学校が楽しくない。」と感じている児童がおり、陰口やからかいなど、心のけがにつながるトラブルもある。
目標	・日常の集団づくりを基盤として、人権教育の推進、人間関係プログラム（ソーシャルスキル等）の実践を通して、児童の自尊感情を高めたり、多様な価値観を認め合いながら、豊かな人間関係を築くことができる力を育てる。

5.取り組みや意識の継承

課題	・毎年、年度末に教職員の人事異動があるため、新年度がスタートする際にＩＳＳについてわからないことがあり、取り組みがスムーズに始まりにくいことがある。
目標	・前年度にとりくんだことをデータ化して残すとともに、教職員間で総括をしてまとめておく。また、５年生児童が６年生になり、各部会の中で主体的に取り組めるように、児童も前年度末に総括や引き継ぎをする場を設定したり、新年度、新入生に対してＩＳＳの取り組みについて紹介をする場を設定したりする。

